

特集
東京スカイツリー®

桜縁

oh・en
おうえん

日本大学校友会
会報誌

2012.1

No. **20**



contents



8 特集

東京スカイツリー

part1 東京スカイツリーに日大人あり

東武タワースカイツリー株式会社 武藤俊彦さん
株式会社大林組 浦 進悟さん
大塚英郎さん
笹原大介さん
小林淳一さん
旗持天文さん
横山伴師さん

先輩に尋ねる“東京スカイツリー”
インタビュー 法学部 三上修司さん
文理学部 市川愛恵さん
理工学部 三谷昇平さん

part2 墨田区の“江戸”を歩く

文理学部地理学科教授 落合康浩さん
元テレビ朝日アナウンサー 川松真一朗さん

38 新企画 青春プレイバック


大らかな伝統を受け継ぐ学舎で 友情の絆を深める

前橋市長 高木政夫さん
厚木市長 小林常良さん



50 先輩にインタビュー パン屋の仕事

ときわ堂製パン代表 塚本雅之さん
インタビュー…商学部 木村涼子さん
パンの店トップ店長 宮嶋秀樹さん
京田食品社長 京田 保さん
小城製粉(のせ菓業)社長 小城年久さん

 抽選で総勢27名さまにプレゼント！
詳しくはP.64をご覧ください。

表紙の写真
決めのポーズを取る殺陣同志会の面々

2 新企画 気仙沼だより
復興へ～港町の心意気
三陸新報社記者 守 竜太さん

4 NU Scoop
運動部紹介……自転車部
サークル紹介……殺陣同志会（芸術学部）
キャンパスの人気者……松本康平さん（法学部）
留学生紹介……周 秦さん（大学院松戸歯学研究科）

28 わが町の先生
校友の支えが一步踏み出す力に
岩手県陸前高田市 すがわら動物病院院長 菅原博文先生

30 趣味悠々
ダンスは万国共通の言語
鳥取県大山町 近藤盛一さん

31 ふるさと礼讃
800年を超える伝統の流鏝馬
福島県古殿町 野崎喜彦さん



32 フロントランナー
社会に配慮したバイオマスの実現を！
NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク理事長 泊 みゆきさん

36 お店紹介
奈良県奈良市 井上天極堂

37 お宿紹介
北海道釧路市 釧路ロイヤルイン

42 夢に向かって！
石垣の海のように輝く色彩に魅せられ
石垣焼窯元 陶工 工藤進也さん

43 トップの肖像
若者よ、来れ“もうかる農業”へ！
農業生産法人・有限会社トッピーバー 嶋崎秀樹社長

46 お達者通信
東京の下町に信頼を築いた医師人生
東京都台東区 椿 弥一さん（91歳）

47 首長に聞く
企業経営の経験と発想で市政に挑む
福岡県飯塚市 齊藤守史市長

56 日大人 百花繚乱
目指すは「せかいのかみやま」！
NPO法人グリーンバレー理事長 大南信也さん
萩の映画の灯を守り続けて
NPO法人萩コミュニティシネマ理事長 高雄一壽さん

60 書籍紹介

62 支部・部会紹介
富山県支部
三重県支部

63 校友会ニュース

64 お知らせ・掲示板

「桜縁」の由来

「桜」は日本大学の校章にもあしらわれた花です。この桜（日本大学）を媒介として大学、校友、在学生のそれぞれが新しい「縁」を結び、互いに助け合い、協力し合いながら発展していくためのコミュニケーション誌という思いを込めて「桜縁」と名付けました。また、校友の方には母校の活動と後輩を、在学生の方は仲間同士で“おうえん（応援）”しましょうという心を託しました。

復興へ〜港町の心意気



カツオの入札結果を聞く仲買人でにぎわう気仙沼港



日本一を達成した気仙沼港のカツオの水揚げ

東日本大震災の爪痕残る被災地に冬が訪れた。決して雪が多い地域ではない気仙沼市でも、今年(平成23年)は寒風がやけに身に染みる。あれから9カ月近くがたつ。

思い返せばあの日、大津波の襲来からふと気付けば、厚い雲に覆われた空からは小雪が降っていた。映画のような惨状で肌を刺した冷気のがんじょうが、冬を迎えた今と重なる。

鉄骨をむき出しにしたまま解体を待つ建物を見て、今でも夢であつてほしいと願う。あの日より前、街がどんな姿をしていたのか忘れさせる無機質な光景に、むなしさが込み上がる。

◇ ◇
何をどうしても今すぐにはどうすることもできない被災地の現実。そんな中であつて、今はこの「快拳」を素直に喜びたい。



三陸新報社記者

もり りゅう た
守 竜太さん

平成15年文理学部社会学科卒業



気仙沼湾を覆う幻想的な「けあらし」。自然だけは震災前と変わらない

気仙沼港が昨年までトップを不動のものとしていた生鮮カツオの水揚げ量が、今年も震災を乗り越え日本一を達成したことで、15年連続となる。

震災直後、ボロボロになった港を見て、この快拳を予想できた人がいただろうか。魚市場を取材する立場として、水揚げが始まった6月以降もしばらくは、昨年まで当然だった「日本一」を口にするのがどこか場違いな雰囲気も感じていた。

しかし、港関係者の心は折れていなかった。宮崎、高知などから来るカツオ船は「復興の力に」と受け入れ能力が落ち込んだ港に調整しながら水揚げを続けた。

それに応えようと工場を失った仲買人が懸命に買い付ける。被災した定置網も、船に餌のイワシを供給するために復旧させた。

まさしく私たちが生きてきた気仙沼の底力を見た。誇りだ。課題は尽きない。それでも復興に前を向くわれわれ被災地の市民の背中を押してくれたことは間違いない。

カツオ漁も終盤を迎えた11月のある朝。朝日が照らす気仙沼湾では、外気より暖かな海面から上る水蒸気にカツオ船が包み込まれるような情景が浮かび上がった。冷え込んだ日に見られるこの時期特有の「けあらし」だ。

震災前と変わらない、幻想的な風景が、張り詰めた心をときほぐしてくれた。

(平成23年11月記)

サークル紹介

芸術学部 殺陣同志会

昭和33年創部。創設者の村口忠さんがチャンバラをやってみたくて結成した。その後、殺陣師や俳優を志す学生が集まるようになり、今年で54年の歴史を有する。これまで、時代劇などで活躍する多くの殺陣師を輩出してきたことでも知られている。最近では、時代劇以外の分野でも活躍する場が広がり、映画『キルビル』に出演すると同時に、殺陣指導や振り付けを担当した島口哲朗さんも殺陣同志会OB。現部員数19人（男子5人、女子14人）



会長 加藤 智士さん
芸術学部映画学科3年

「将来は、若山富三郎や勝新太郎、先輩の真田広之さんのような素晴らしい殺陣のできる役者を目指しています」



半世紀以上の歴史をもつ名門サークル
「殺陣」が織りなす日本独自の美の表現

着物姿の一人の剣士が、次々と現れる刀や薙刀を持った敵を倒してゆく。演技とは思えぬほど真剣さながらの息を飲む迫力感と爽快感がなんとも小気味いい。演目は時代劇から現代劇仕立て、昔話を題材とした幻想的で趣向を凝らしたもので。「剣と立ち振る舞いだけで、感情や空気感をどのように表現するかを常に研究しています」と殺陣同志会第56代会長の加藤智士さん。体から剣の先までに走る緊張感と気迫に満ちた表現力、鮮やかな立ち回りに、観客は殺陣の世界に引き込まれていく。

観客を毎回魅了する公演は年数回。日々の厳しい練習の成果が結集される。1年目は刀のみの練習で所作などの基礎を体得。2年目から、応用として薙刀や槍などの長物も扱えるようになる。この確立された練習方法も伝統的なサークルならではの。「最近では女性部員が増えたことで、扇の使い方や花をモチーフにするなど細やかな表現が演出面で発揮されていると思います」と加藤さん。「時代劇離れが進む今、若い人にもっと素晴らしい日本文化を広めたい」と意気込む。



運動部紹介



全日本大学対抗選手権（インカレ）29年連続優勝。無敵の日本大学自転車部。この強さの源を伝統の「ナニクソ精神」と井上由大監督は語る。「入部には寮生活が前提。初代監督の時代に寺で合宿して以来の伝統です。自転車競技は個人競技ですが、部員が寝食を共にすることで選手として人として成長します」。普段の練習は早朝に。「体に負荷のかかる時間帯にみっちり走り込み、昼間は授業に出る。練習と勉強を両立しながら集団生活を送ることは“耐える”“ガンバル”の連続。自然と“負けない気持ち”が養われます」。

しかし、想像を超える集団生活の厳しさに、入部早々、寮を飛び出す部員も。そのため入部前に選手や家族にも協力を仰いでいる。「あまりのつらさに家に戻ってきても、心を鬼にして寮に返すようお願いしています。戻された子は必ず最後までやり遂げます。やり遂げた部員は社会に出て活躍します」。

毎年10人ほどの新入部員は、高校でトップクラスの選手ではない。「3番手、4番手で伸びしろが残っている選手の成長が大きい」と監督。勝ち続けることよりも部員の成長を第一に考えている姿勢に静かな強さがみざっていた。

国体、インカレを控え、集中的に練習をする選手たち。「そろそろ負ける悔しさも味わってほしい」と井上監督は言うが、選手たちは優勝を目指し、猛進している



強さの秘訣は「ナニクソ精神」
個人競技をチームワークで制す

保健体育審議会 自転車部

昭和26年創部。初代監督・浜中一泰氏が中心となり3人で立ち上げたのが始まり。全日本大学対抗選手権（インカレ）では、第13回で初優勝した後、これまでに49回の優勝。第39回大会から昨年の第67回大会までは29年連続優勝を果たす。実業団選手やプロの競輪選手を多数輩出。五輪競技大会には、これまでに選手や役員として20人以上が参加し、昭和59年のロサンゼルス五輪では坂本勉選手が銅メダルを獲得した。部員数40人（男子のみ）



井上 由大監督
昭和59年商学部商業学科卒業

留学生紹介

中国・西安 東京



シェウ シン
周 秦さん

大学院松戸歯学研究科歯学専攻博士課程4年

先進技術を母国の学生に伝え
高審美性治療の普及に貢献するために

人は豊かさを手に入れるにつれ、より高い望みをもつものである。中国の歯科治療事情も経済成長とともに変化してきた。周さんが西安医科大学（現西安交通大学）歯学部を卒業し、母校の歯科医師になった当時、虫歯の患者は痛みが取れ食事ができるようになれば、それで満足していた。しかし現在では、治療が残らない、美しい歯の修復を望む患者が増えてきた。

診療や学生を指導する中で、患者の要望に応えるために先進の技術を学びたいと思っていた周さんは、学内の掲示板で日本大学の博士課程の入学案内に気づき、絶好のチャンスだと考えた。

「留学経験がある同僚から日本の技術や機器、歯科素材が進んでいることを聞き、留学を決意しました。小学生の一人娘と会社員の夫を中国・西安に残し、保存修復学を研究し、博士号を取得するために日本に来ました」。

周さんは来日前から独学で日本語を学んでいたが、入学後は日本語独特の言い回しや表現方法に戸惑いもあったという。そんなとき、日本語教師役を引き受けてくれたのが、同じ医局の同級生だった。

「同級生の彼女は中国語を勉強中でしたから、中国語については私が先生、日本語は彼女が先生になって、互いの語学力を高めています。医局の皆さんに



沖縄美ら海水族館
MIRAMORI OOKINAWA AQUARIUM

昨年の夏休みは、初めて来日したご主人、娘さんと沖縄へ旅し、美しい自然や沖縄料理を満喫。美ら海水族館では、巨大水槽を優雅に泳ぐジンベイザメや魚たちの乱舞に家族で歓声を上げた

はとても親切にいただいています。日本語能力試験1級に合格したときは、皆でお祝いしてくださいました。学位取得への責任感に加え、家族のように親身になってくださる医局の人たちの支えがあったからこそ、夜明けまで一人で実験を繰り返した日々もがんばり通せたのだと思います」。

博士号取得を間近に控えた周さんの胸には、日本大学で学んだ知識や技術を中国の学生に伝え、高審美性治療で患者の満足感を高めたいという思いがますます強まっていた。



実験室で試作したレジコート材の接着強さを繰り返し測定している様子

キャンパスの人気者



「Neco」の仲間にもまれる松本さん（中央）

捨てられてしまうものをアイデアで再利用 「エコ活動」でみんなを幸せに！

複数合格した有名大学の中から「受験のとき、歴史を感じる建物や学内の雰囲気自分に合っている」と感じ、日本大学に入学した松本康平さん。大学生になったら「自分を成長させられる活動をしたい」と考えていたが、入学してすぐに「Neco」というサークルに出会う。「Neco」は、エコロジーを通して社会に貢献する活動を目指しているサークルで、松本さんは2年生にして既にこの60人のサークルの代表を務めている。

「Neco」の代表的な活動は、学内での雨傘の無料レンタルや緑化作業、大学周辺のごみ拾い。「コンビニや飲食店で置き忘れになった傘は、店が一定期間保管した後は廃棄されます。その傘をもらい受け、雨の日に学内で貸し出しをしています。捨てられてしまう傘の再利用です」。

松本さんたちは、結婚式場のキャンドルの再利用も思い付いた。結婚式で使うキャンドルは、一度使うと捨ててしまう。そこで、これを集めて再利用することに。「とはいっても、再利用の仕方がすぐには思い浮かびませんでした。ところが、あるメンバーが近くの児童館で子供たちにキャンドルづくりを体験してもらうことを考えたんです。やってみると、子供たちの真剣なまなざし、完成したときのうれしそうなお顔を見て、見過ごしてしまえばごみとして扱われてしまうものがこんなに人を喜ばせることができるんだと思いました」。

「将来は旅行会社に就職し、“環境”に関わるツアーなどを企画してみたい」と目標を語る松本さん。「多くの人が環境問題やエコに関する意識を少しでも高めてもらえたらうれしい」と、真っすぐな思いはずっと変わらない。



matumoto
松本 康平さん

法学部政治経済学科2年



キャンドルの再利用でつくったキャンドル細工

東京スカイツリー®



東京墨田区、墨堤ぼくでいの名残と隅田川を臨む地に、
新タワーの建設がスタートして4年。この春、
東京スカイツリーが開業する。

建設中、日々わずかずつ、しかし着実に空に向かっ
ていく姿は、ともすれば沈みがちだった日本人の
心に、自信と希望を与えた。

東日本大震災をもろともせず、屹立するタワーは、
世界に冠たる技術大国・日本の象徴である。その
背景には、自らの仕事に誇りをもち、世界一の
自立電波塔の建設に情熱を傾けた日大人がいた。

p10 東京スカイツリーに日大人あり

p16 先輩に尋ねる東京スカイツリー Q&A

東武グループの総力を結集し 新しい「命」の誕生に取り組んでいます

東武タワースカイツリー株式会社
技術本部設計担当課長

武藤 俊彦さん

昭和53年大学院生産工学研究科建築工学専攻修了

(むとう・としひこ) 昭和29年生まれ。昭和54年東武建設(株)に入社し、平成19年東武タワースカイツリー(株)へ出向、技術本部設計担当課長。

東京スカイツリーは、鉄道・開発事業を行う東武鉄道をはじめ、住宅産業、流通産業、レジャー産業、旅客・貨物の交通産業からなる、東武グループ92社の総力を結集して取り組んでいる事業です。私は住宅産業部門の東武建設で、長年、設計業務を担当してきました。

東武グループが「新タワー事業を開始する」と発表した平成17年当時、グループ内外物件の設計や現場監理を行いながら、コンクリート中性化防止の対策に取り組んでいましたので、634mのタワー建設は、まるで別世界のプロジェクトのように思えました。新タワーを核とした東京スカイツリータウンのコンセプトが発表された翌年、東武タワースカイツリーへの出向を命じられました。プロジェクトの最終的な責任を担う一人となるわけですから、不安や悩みがなかったと言えようになりません。

す。しかし、自ら望んでもこの職務を与えられるわけではありません。ですから貴重な機会を与えられたことに感謝し、まさに身の引き締まる思いで引き受けました。着任後は設計図書確認に始まり、プロジェクトの進捗に合わせ、施工図確認、監理業務確認、出来形検査などを進めてきました。業務遂行に当たっては、何事においても間違いない判断・決定を下すことは言うまでもありませんが、現場は日々刻々と変化する生き物ですから、遅延のない決断を心掛けました。開業の足音が近づく中、今後は各施工者の自主検査、竣工検査、関係官庁の完了検査など、厳しい目で最終仕上げが進んでいきますが、関係者の皆さまに大切に守られながら誕生する東京スカイツリーは、掛け替えのない新しい命のような感じが生きています。

東京スカイツリーに 日大人あり

新技術を貪欲に取り入れながら 常にチャレンジ精神で挑む日大人

株式会社大林組
常務執行役員 東京本店建築事業部

浦 進悟さん

昭和48年理工学部建築学科卒業

(うら・しんご) 昭和25年長崎県生まれ。本学卒業後、(株)大林組に入社し、大阪本店建築本部設計部に配属される。昭和49年名古屋支店設計部、53年東京本社建築本部設計第三部設計課、平成14年東京本社東京建築事業部第五営業部長、16年東京本社東京建築事業部統括部長、19年執行役員 東京建築事業部担任副事業部長、22年常務執行役員 東京本店建築事業部副事業部長。

東京スカイツリーの建設は、当社はもちろんのこと、建築業界全体ひいては日本にとって、希望のある明るいプロジェクトです。当社の企業理念の一つに「優れた技術による誠実なものづくりを通じて、空間に新たな価値を創造」とあります。未知の高さに挑戦する今回のタワー建設は、これまで開発してきた技術を結集すると同時に、新しい技術の開発に真摯に取り組みながら日本が世界に誇るランドマークを完成させたという、まさにこの理念の実践を象徴する事業になりました。

社内では「世界一のタワーをつくる」ということで家族との会話が弾む、あるいは子供たちがお父さんの仕事に今以上に誇りをもつなど、社員の士気向上にもつながったことに加え、当社への入社希望も増えるなど、思いがけない波及効果も現れています。今回のタワーのプロジェクトには、

リーダーはじめ基礎を担当した特殊工法部課長、工事事務所工事長など、日本大学の校友が多数参加しています。彼らは常に問題意識をもち、次々に直面するさまざまな課題をクリアしながら、各業務を工程どおりに進めました。こうした力量は、学生時代の優秀さはもちろんのこと、入社後の教育や自己研鑽によって身に付けてきたものだと考えます。新しい技術を貪欲に取り入れ、常にチャレンジ精神をもち続ける多くの日大人たちに支えられて、このプロジェクトは竣工を迎えようとしていると言っても過言ではないでしょう。

開業後は、東京スカイツリーの足元からその雄姿を見上げてください。直径23mの鉄骨柱が美しく組み上げられて世界一のタワーを支えている姿は壮観の一言です。ぜひ日本の新しいランドマークをお楽しみいただきたいと思えます。



■設計意図を実現する施工へ
 東京スカイツリー建設工事受注が決定したのは、平成19年9月のこと。私は工事入札の見積もり段階から関わり、鉄骨の製作・施工に関する技術や品質管理を取りまとめました。見積もりでは、随所に安全で的確かつコストに見合う施工提案を盛り込みました。これまで培ってきた鉄骨施工技術と鉄塔建設の経験を活用して注ぎ込んだので、受注できたときは、晴れやかな達成感を味わいました。

しかし、前例のない高さに対し、狭い敷地、地盤の問題、短い工期などの制約条件があり、それらを解決できるのかという大きな不安にも襲われました。仕事は、設計図書としまの検討から始まり、設計サイドから工事を実施するための検討事項をまとめ、設計サイドと調整。着工後も、設計・製作側の意見の交通整理を行い、設計意図を実現しつつ、お互いの納得のいく形を目指しました。また、前例のない高さを実現するため、主要鋼材は全て新規開発品が採用されました。そのため、性能試験や検証を数多く実施しましたし、工場製作の鉄骨部材は、わずかの狂いが組立てに支障を来すため、品質管理にも多くの時間を割きました。今日は試験場、明日は製造工場へと、毎日飛び回っていましたが、「問題は今日のうちに解決し、明日に引きずらない」がモットー。迅速に正確な提案を行い、設計者をはじめ関係各者の合意形成を心がけました。

■鉄骨の技術、品質管理にこだわり続ける
 完成までの苦労は数えきれませんが、周囲から期待されるプレッシャーもすごかった。でもそこから大きな使命感が湧きましたし、家族の応援も心強く感じました。子供からは「すごいね、早く上りたいな」と言われています。実は、10年ほど前に600m級の電波塔の建設が検討されると聞いたとき、なぜか「これは私の仕事だ」と強く心に響くものがありました。根柢などまったくありませんが、不思議な運命のようなものを感じていましたね(笑)。

株式会社大林組
 東京本店建築事業部生産技術部専門技術課 担当課長
大塚 英郎さん
 昭和63年理工学部建築学科卒業

(おつか・ひでお) 昭和63年(株)大林組に入社。平成2年に品質保証室配属、鉄骨工の品質管理を担当。その後生産技術部で仮設計画、仮設見積、鉄骨の技術開発と品質管理支援を行う。愛知県の瀬戸デジタルタワーと都内の超高層ビルの現場担当を経て、東京スカイツリー計画に参画。現生産技術部所属。将来的には、鉄骨業界の体質改善に取り組みたいという夢をもつ。



鉄骨技術が要 運命を感じた東京スカイツリー建設

東京スカイツリーに 日大人あり

日大人が支える現場力

誰も経験したことのないことへ挑戦する楽しさがありました



ゲイン塔組立て・リフトアップ工事担当
 菅原 大介さん

工程どおりに作業が進んでいくか、緊張の連続でした



リフトアップ工事担当
 簾持 天文さん

プレッシャーも大きい分、使命感が湧いてきました



鉄骨技術品質担当
 大塚 英郎さん

最高水準の職人さんたちと知恵を出し合う、刺激的な現場でした



塔体鉄骨工事担当
 小林 淳一さん

みんなの気持ちを一つの方向にまとめあげ、業務に取り組みました



基礎工事担当
 横山 伴師さん

東京スカイツリーの概要
 名称：東京スカイツリー
 所在地：東京都墨田区押上1丁目
 敷地面積：約36,900m² (タワー+東西街区)
 構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
 建築主：東武タワースカイツリー株式会社
 設計・監理者：株式会社日建設計
 施工者：株式会社大林組

エンジニアとして 大きく成長できた現場



今回の建築プロジェクトは、未知の高さへの挑戦！高所での気象条件を考え、地上でゲイン塔を組み立てて、リフトアップ工法で500mの高さまで吊り上げ、そこから150m突き出させるという、前例のない工事に挑みました。

2年間の準備期間に、リフトアップ用の新たなジャッキを設計開発しました。また、組立現場となったタワー中心部の空間はクレーンも使えない狭さなので、どうやって165mの塔を組み立てるか検討しました。リフトアップより、組立て方の検討に苦労しましたね。事前にあらゆることを想定し、何度もシミュレーションをして検証したので、現場は思いの外スムーズに進みました。

仕事に対しては不安より、誰も経験したことのないことへ挑戦する期待感が大きかったですね。もともと大規模建造物のスケール感に魅せられ、その現場で機械化施工に携わりたいと入社しましたが、今回開発した機械は10機ほど。新しい機械に職人さんたちは不安もあったようですが、作業していくうちに機械への信頼をもってくれ、それが現場全体の結束にもつながりました。

今、東京スカイツリーを眺めるとき、数多くの人たちの努力が634mの高さに結実し、その中の一人に自分がいたんだという思いを深くしています。

東京スカイツリーに 日大人あり

生涯の財産となった プロジェクト



当初は塔体を組み上げるための、車輛動線や作業用スペースとなる低層棟を担当しました。通常ならば土を全部掘り出し、最下階から上へと各階をつくり上げていきますが、今回は作業の効率化と限られた敷地を有効に使うため、逆打ち工法で工事を進めました。まず1階の床を構築し、そこを作業スペース兼用の床にして地下1階と地上4階までを並行してつくり上げました。

その後は、地上デジタル放送用アンテナを取り付けるための、最上部のゲイン塔を担当しました。長さ165mのゲイン塔は、地上で鉄骨を組み立てましたが、ミリ単位の精度を要求される厳しい仕事でした。完成後はリフトアップ工法で総重量約3000トンのゲイン塔をワイヤーで引き上げ、最終的に634mの高さに到達しました。高所作業ならではの強風に悩まされながら、全て完了するまで約1年間を要しましたが、工程どおりに作業が進んでいくか毎日不安で、胃が痛む緊張の連続でした。

東京スカイツリーの仕事は一生に一度出会えるかどうか分からないほどの大きなプロジェクトです。ですからここでやってきた仕事のひとつひとつが、今後の仕事にも生きてくると思います。いろいろな人と出会えたことや、ここでの経験は私の大きな財産になりました。

株式会社大林組
東京本店新タワー建設工事事務所 工事長
簗持 天文さん
平成4年生産工学部建築工学科卒業

(はたもち・たかふみ) 昭和45年山梨県生まれ。本学卒業後、(株)大林組に入社。高層マンション新築工事やキャノン研究所棟新築工事など多数の国内建築現場を経て、平成20年4月より東京スカイツリーの現場に従事。主にゲイン塔のリフトアップ工事を担当。

株式会社大林組
東京機械工場施工技術第二課 副課長
笹原 大介さん
平成11年生産工学部機械工学科卒業

(ささはら・だいすけ) 昭和51年静岡県生まれ。本学卒業後、(株)大林組に入社。東京機械工場や建築本部特殊工法部に所属しつつ、多数の大型プロジェクトの機械化施工・技術支援に従事。東京スカイツリーの現場では、ゲイン塔の組立てやリフトアップ工事を担当。

志を同じくする者たちの 一体感

東京スカイツリーの塔体建設工事の中で、自分は鉄骨の組立工事を担当しました。大学では勉強できなかった施工の分野に興味があつてゼネコンに就職したのですが、今回の現場の経験は実に得難いものでした。でも、着工当時は、与えられた業務を確実に遂行しようと、淡々とした気持ちで臨んだ記憶があります。

建築現場は無事故が当たり前ですが、当たり前前であることを実現するには細心の注意が必要です。朝から作業終了まで、安全の徹底に目を配る、その積み重ねの日々でした。また、人間力に裏打ちされてこそ最新の技術が生き、634mの高さを実現できる。そう思い、現場でのコミュニケーションを大切にしました。

現場の職人さんたちは皆、最高水準の知識と経験を持ち、この仕事に誇りをもっていました。そんな人々と対等に向き合い、2万5000もの鉄骨部材を積み上げて塔体を築く作業をいかに効率的に行うか、知恵を出し合い、刺激し合う現場でした。皆の思いは一つ。世界一のタワーをつくること。志を同じくする者同士の一体感の中で、本当に気持ちよく仕事を行うことができました。

東京スカイツリーに携わったおかげで、家族や親族も自分の仕事をよく理解し、誇りに思ってくれたことを本当にうれしく思っています。



株式会社大林組
東京本店新タワー建設工事事務所 主任
小林 淳一さん
平成13年理工学部建築工学科卒業

(こばやし・じゅんいち) 昭和53年東京都生まれ。本学卒業後、(株)大林組に入社。赤坂5丁目TBS開発新築工事など多数の国内建築現場を経て、平成20年9月より東京スカイツリーの現場に従事。主に塔体鉄骨工事を担当。

日本の誇りをつくる使命感

着工の5年前から超高層構造物用の杭として利用できるナックルウォールの技術開発を進めていました。ナックルウォールとは、地中連続壁杭にコブ状の節を付けることで、杭の支持力や引抜き・押込みの抵抗力を高めるとともにコストダウンにもつながる画期的な技術です。

当初は別の工法で基礎をつくる計画でしたが、引抜き力や押込み力が大きく、加えて敷地が狭い場所での施工性に優れたナックルウォールを提案し採用されました。現場では、全員がタワーに携わっていることを誇りに思っていますから、みんな朝から気合が入りビリビリしていました。私は基礎工事のチーフとして部下や協力会社の方々と和ませたり、緊張を解きほぐしたりしながら、みんなの気持ちを「世界一のタワーをつくり上げるんだ」という方向にまとめあげ、業務に取り組んできました。

自宅は現場のすぐ近くで、妻の実家はタワーの足元といつていくらいのところにあります。当社が建設を受注してから、東京スカイツリーは家族みんなの自慢になりました。子供の小学校で「東京スカイツリーについて調べよう」という授業があつたときには、「うちのお父さんがつくっているんだ」と自慢だったようです。

私たちは、この東京スカイツリーがいつまでも当社の誇りとなり、日本の誇りであり続けたいことを確信しています。



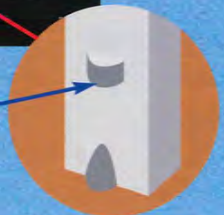
株式会社大林組
本社建築本部特殊工法部 担当課長
横山 伴師さん
平成元年理工学部建築工学科卒業

(よこやま・ともし) 昭和41年東京都生まれ。本学卒業後、(株)大林組に入社。国内建築現場を経て、平成8年より建築本部特殊工法部に所属。以降、国内多数の地中連続壁関係の特殊技術採用プロジェクトの施工・技術支援に従事。東京スカイツリーの現場では基礎工事を担当。

日本人が今までかつて経験したことのない高さを有する東京スカイツリー。そこには、どのような技術や工夫が用いられているのか。そんな疑問を解決してもらおうと、本学学生の三上修司さん、市川愛恵さん、三谷昇平さんが建設に携わった先輩の皆さんを訪ねた。3人も、東京スカイツリーに興味津々で、質問は素朴な謎から工法や部材に関するものまでさまざま！先輩たちからは、分かりやすい説明に加え、現場の裏話まで飛び出した。その一端をご紹介します。



この節(ナックル)で、引抜き抵抗力が大幅アップ！



ナックルウォール

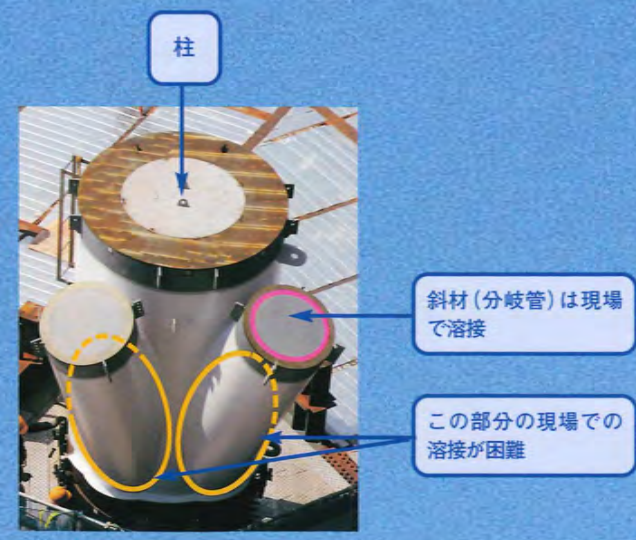
Q 世界一の自立電波塔を支える基礎はどのようにつくられていますか？

A ナックルウォール(節付き壁杭)という工法を用いています。タワーの底面積が非常に小さいので、建物の基礎に非常に大きな力がかかります。それを地盤に効率的に伝えるため、普通用いられる杭ではなく、厚さ1m以上のコンクリート壁を連続してつくり、その先に節を付けました。そうすると、杭が固定され、荷重を支える力が大幅に増大するのです。地震や強風に対する引抜き力にもとても強いんですよ。杭は長さが50mあり、支持層(砂礫層)に十分根入れられています。



横山さん

先輩に尋ねる
東京スカイツリー



斜材(分岐管)は現場で溶接

この部分の現場での溶接が困難

Q 鉄骨はどのように組み立てられたのですか？

A 巨大な鉄塔なので、鉄骨を分割して工場製作し、それを現場で溶接して組み立てました。複雑な形状なので、円筒状のパイプとパイプを斜めにトラス状につなぐ分岐継手設計という方法を採用しましたが、継手の部分の溶接には高い精度が求められました。国内の建築ではほとんどやったことのない工法に加え、新規開発の鋼材もあり、溶接したときに破損しないか、力が均等に伝わるかなど、事前に試験を繰り返しました。鉄骨を建てるときは、高性能のGPSで建物の中心を常に監視しながら、組み立てました。

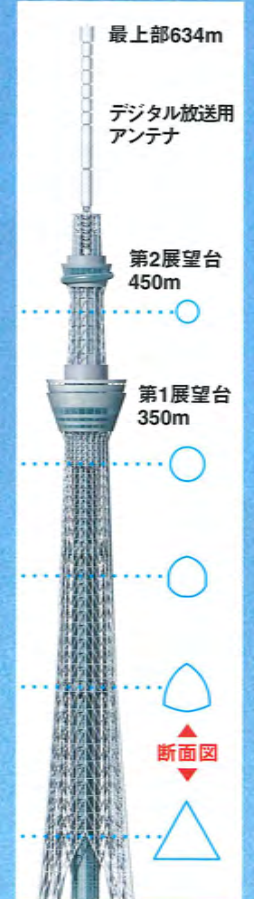
大塚さん



簀持さん・笹原さん

Q ゲイン塔を建設したリフトアップという工法はどういうものですか？

A 500m以上の高所では強風で溶接がうまくできないことや作業の安全性を考え、地上で組み立てたゲイン塔をタワーの中心の空洞を使って吊り上げていくリフトアップの手法を採用しました。組立ては、タワーの中心部で最頂部からつくり始め、一部組み上がるたびに500mの上階に設けたジャッキで吊り上げ、その下の部分を組み立てる「逆だるま落とし」の方法で塔を完成させました。その後は、ゲイン塔を吊り上げ、徐々に634mの高さまで持ち上げるのですが、狭いところでゲイン塔とタワーの間が70mmしかなく、バランスを保つのが大変でした。

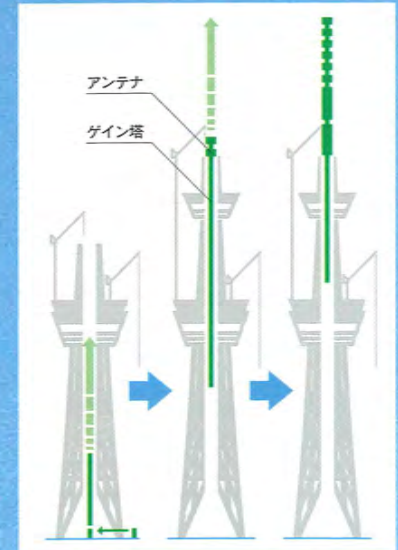


Q タワーは三角形から円形に変化していくデザインですが、それを実現するために、どのように工夫されましたか？

A 地上の三角形は300mの高さで完全な円形になります。そのため、三角形の頂点から延びるラインは「そり」といって内側にそらせ、辺の中心のラインは「むくり」といって外側に膨らませていきます。日本刀や古代の建築物の柱などによく見られる形状ですね。このような構造のため、東京スカイツリーをどこで輪切りにしても、その断面は一つとして同じものはありませんから、鉄骨部材も一つとして同じものはない複雑なものになりました。鉄骨は19の会社で製作したので、三次元CADで鉄骨の工作図をつくらせてデータを共有し、どの会社がつくっても同じようにつくられるようにしました。



タワーの中心の空洞内で吊り上げられるゲイン塔



最上部に、デジタル放送用アンテナを付けるゲイン塔を設置する



小林さん・大塚さん

A

どこの現場もそうですが、ごみの分別はもちろん、環境配慮型の機械も導入しました。施工材料では、東京スカイツリーの白い塗料は有機塗料の揮発成分を極力少なくした塗装を選びました。

Q

工事でエコや環境に配慮された部分はありますか？



この塗装はさびに強く、25年間メンテナンスが不要

先輩に尋ねる
東京スカイツリー

大塚さん

A

当社独自のスリップフォームという工法を採用しました。ゲイン塔が上部に設置された段階からつくり始めましたから、最初に建てられたものではありません。心柱は制振装置の役割を果たします。東日本大震災のときは、心柱と塔体本体はまだつないでいませんでしたから、もしできていれば、あれほど揺れなかったと思います。心柱の内部には非常階段が設けられているんですよ。

Q

心柱はどのような役割をもつもので、どのように製作されたのですか？



タワーの中心に直径8m、高さ375mの筒状のコンクリートで心柱をつくる

笹原さん

A

彼らは、朝上るときにはリュックサックにいったい荷物を持ってクレーンへ向かいました。その中にはお弁当もありましたよ。クレーンの部屋の中には電子レンジや冷蔵庫、テレビ、簡易トイレまでそろっています。冷暖房も完備して、操作室の中に入ったら、1日そこにいる。普通の家の機能ももっているとびっくりしてください。

Q

クレーンを操作する人は休憩時間などはどうしたのですか？



一番大きなクレーンは1回に30tを吊り上げる能力をもち、300m吊り上げるのに10分を要する。第1展望台までの鉄骨組立てには3基が用いられた



簀持さん

500m 超えの気象条件に挑む

今回のタワーをつくる際、一番懸念したのが風の影響です。地上500m以上では風が強く、強風時は工事が予定どおりには進みません。また、クレーンで鉄骨を吊り上げるにも風対策は万全にしなければなりませんでした。

そのため、タワー周辺エリアの高さごとの緻密な気象予報を自ら行いました。地上が風速1mの場合、150mの高さでは風速8m、600mでは10mになるなどという情報を出し、実際に現場で計測し、予測と実測を照らし合わせながら、その都度判断をしました。

雷の場合は、雷レーダーを設置し、半径何km圏内に雷が来たという情報入手、警報装置を使って、「警報レベル3です。作業中止してください」というアナウンスを流しました。クレーンは避雷針が付いているから、意外と安全、でも地震の揺れは現場一。東日本大震災のときは、大変でした。



安全ネットで覆われた作業現場



小林さん

現場の一日

鉄骨を建てているとき、現場作業に従事していたのは1日約500人。仕上げや内装工事が入ると1000人も人が現場に入ります。

毎朝7時45分から朝礼ですが、皆、7時くらいから現場入りして、準備をしていました。朝礼では、点呼や安全確認などをして、それぞれ仕事に入ります。高所には工事用エレベーターを利用しましたが、高くなると昇り降りに30分はかかりますので、夕方まで下に降りなくてもいいようにプレハブで部屋をつくり、トイレや休憩場所を設けました。その部屋をユニット化して、作業場が高くなるにつれて、常に最上部に設置するようにしました。

作業する人が多いので、階下には売店や食堂が、また一日の汗を落とすシャワー室もつくられていたんですよ。

小林さん

A

「絶対に落とさない」がスローガン。現場の真下には鉄道や道路がひしめいていますし、高いところから釘一本落としても大惨事になります。今回は、作業現場を安全ネットで覆い、全ての作業を行うように工夫しました。また、道具はハンマーや携帯電話、カメラ、ペン一本まで全ての持ち物に落下防止のストラップを取り付け、毎日の朝礼で落下防止の対応ができていますか、全部チェックしてから作業に向かいました。

Q

大規模な工事についての安全対策でどのような工夫がなされていますか？



安全ネットで覆われた作業現場



「江戸名所一覽双六」二代広重（東京都歴史文化財団イメージアーカイブ）
すころく仕立ての浮世絵。江戸時代に描かれた俯瞰図にもかかわらず、東京スカイツリーの展望台から見たような構成に、当時の人々の地理的空間的感性が推し量られる

落合 康浩（おちあい・やすひろ）先生
日本大学文理学部地理学科教授。博士（理学）。昭和37年静岡県生まれ。平成4年大学院理工学研究科地理学専攻博士後期課程修了。人々が自由時間に自由意思で行うレジャー行動を主要な研究テーマとし、地域資源を生かした観光の在り方などについて研究している。

川松 真一朗（かわまつ・しんいちろう）さん
日本大学ラグビー部コーチ。元テレビ朝日アナウンサー。昭和55年東京都生まれ。平成15年法学部法律学科卒業。墨田区で育ち両国高校から本学に入学。在学中は保健体育審議会ラグビー部の中心メンバーとして活躍した。

今年5月のオープンに向け、着々と準備が進められている東京スカイツリー。最先端技術を駆使して建てられた世界一高い電波塔を見学しようとお考えの方も多いだろう。ならば、ちょっと足を延ばして、東京スカイツリーのお膝元である向島界隈をぶらり散策するのはいかがだろうか。

向島は、江戸時代は日帰り行楽地として、明治以降はあでやかな花街としてにぎわった土地柄。その向島の今昔を求め、文理学部教授・落合康浩先生と、墨田区出身で現在も墨田区にお住まいの元テレビ朝日アナウンサー・川松真一朗さんが「切絵図」（江戸時代の地図）を片手に、ひとときの時間旅行を楽しんだ。

墨田区の
「江戸」を歩く



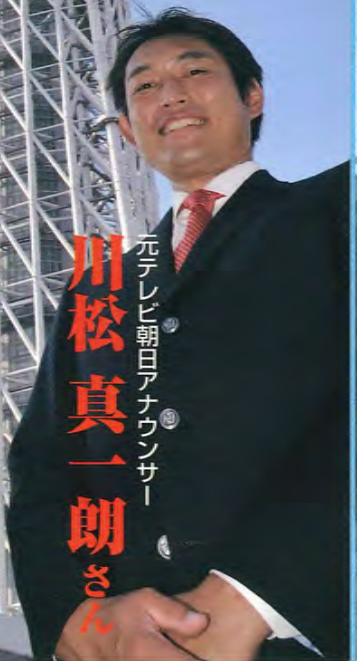
落合先生と川松さんは初対面ながら、切絵図に描かれた向島界隈の話ですぐに意気投合。2人の楽しい町歩きが始まった

切絵図を片手に歩く 東京スカイツリーのお膝元

Part 2 特集



文理学部地理学科教授
落合康浩さん



元テレビ朝日アナウンサー
川松真一朗さん



向島

この「隅田川向島絵図」は、日本が黒船で騒然となっていた安政3年(1856年)につくられました。地図上の緑は田地や山林、赤で囲われたところは寺や神社を示している。当時の向島は田畑が広がり、寺社が点在する田園地帯であったことが分かります。そもそもこの辺りは、東京湾に注ぐ幾筋もの川によって形成された、アシが生い茂る湿地帯でしたが、江戸時代の中ごろになってから開発が進められました。当時「大川」と言われた隅田川の土手(墨堤)沿いに広がる向島は、対岸の浅草にはない静かな風情を愛する文人墨客や粋人が好んで訪れる土地となり、大店の隠居所、行業客相手の料亭や茶屋なども点在するようになりました。この風情は、明治時代以後は料亭や花街として引き継がれ、今もその名残を見ることができます。(落合先生談)



安政三丙辰春新刻
景山致恭著
江戸廻町六丁目
板元尾張屋清七

御紋御上屋敷	町家
御中屋敷	川掘池
神社佛閣	山林土手馬場
道路井橋	原植留等
	田地

柳岸信輔氏繪

- 福 I** 白鬚神社 (しらひげじんじや) P24参照
- J** 諏訪神社 (すわいじんじや) 明治時代に移され、現在は白鬚神社の境内に祠(ほこら)がある
- K** 今も残る道筋 墨堤の道が切絵図のまま残っている場所
- L** 向島百花園 (むこうしまひゃっかえん) P24参照
- M** 曳舟川 (ひきぶねがわ) 18世紀の半ば、田畑のかんがい用水のために引かれた川。底が浅いため、舟を引いたことからこの名が付いた。現在は舟ならぬ車の行き交う道路となっている
- N** 橋場 (はしば) 渡し舟の船着き場。当時、橋の少なかった隅田川では、渡し舟が重要な役割をもっていた
- O** 春慶寺とその界限 (しゅんけいじ) 世界一高い電波塔の真下に世界一が! 王貞治の生誕地に近く、小さなころ、この近所の神社で野球をしていた
- P** 寺嶋村 (てらしまむら) 川の上流から運ばれてきた肥沃な土がナスづくりに適し、この地のナスは「寺嶋ナス」と呼ばれていた。今、その復活を目指しており、白鬚神社には「寺嶋ナス」の鉢植えが置かれていた
- A** 東京スカイツリー (とうきょうスカイツリー) ツリーの場所は東武鉄道の操車場跡。ツリーが建つ前は材木置き場だった
- B** 業平橋 (なりひらばし) 『伊勢物語』の主人公・在原業平の名にちなんだ橋
- C** 隅田公園 (すみだこうえん) 水戸黄門でおなじみの水戸徳川家の下屋敷跡。築山や池が設けられた往時の庭園の名残も。園内には、本学の鶴澤名誉教授らが建てた勝海舟像がある。勝は現墨田区の生まれ
- D** 牛嶋神社 (うしじまじんじや) 本所の総鎮守。関東大震災で焼失して、昭和7年、この地に再建された。奈良時代、この地域には、官営の牧(牧場)があったとか
- E** 三田神社 (みたじんじや) P24参照
- F** 弘福寺 (こうふくじ) P24参照
- G** 長命寺 (ちやうめいじ) P24参照
- H** 桜並木 (さくらなみき) 徳川八代將軍吉宗の時代に植えられた桜の並木。その後、向島百花園の佐原鞠場(きくう)など町人が中心となって、保護改修が続けられ、現在に至る花見の名所となった



復刻 江戸切絵図 二十七 安政新刻 隅田川向島絵図 (原図・国会図書館蔵、岩橋美術復刻版より転載)



1haほどの園内には、1000本以上の樹木と550株の草花が植えられ、四季折々の趣をつくり出す。周囲の喧騒をよそに、緑に包まれて、会話は大いに弾んだ

江戸の粹人たちが
しつらえた
向島百花園を訪ねる

墨田区の
「江戸」を歩く

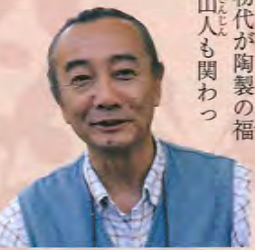
初代が仙台出身で、江戸で骨董商をやっていたんだけど、隠居するときに、中国の慣習に従って梅を植えようと考えて、「梅の木を寄付してくれ」と書いて、付き合のある連中に声を掛けたんだ。おかげで360本の梅の庭ができてね。だから、切絵図には「新梅屋敷」と書いてあるんだ。そしたら梅を寄付した連中が自分の庭のように思っただけで、秋の七草を植えて、万葉集に出てくる草花を植えようとして加えられて、みんなここに集まるとは詩歌に興じたんだ。今も日本古来の花や植物しか植わってないよ。大名庭園じゃあ、こういうひなびた風情は出ないね。

ここに関わった人たちは、狂歌なんかやってた連中だから、ちよつと斜に構えてね。当時は松平定信の寛政の改革の時代。ぜいたくが禁止されて町なかで派手に飲めなくなっちゃった。今、スカイツリーが建っている小梅村まではお江戸だけど、ここは南葛飾郡寺嶋村。目の届かないところにたまり場をつくらうってことになったんだらうね。サロンのみたいなもんだ。

入園料代わりに、国学者の加藤千蔵が「お茶さしめせ 梅干さむらうぞ」と書いて、分に合った茶代をもらって運営したんだ。

隅田川の七福神？ それはね。冬には花がないし、雪でもないと呼び物がなから、七福神めぐりを考え出した。初代が陶製の福祿寿の像を持っていたのがきっかけ。太田蜀山人も関わって「七福神めぐり」の文章を残しているよ。

今、季節を忘れた生活を送っている人が多いた。ストレスたまるよね。そんなとき、ここにきてみてもらえ。静かな庭を散策すると気持ちも落ち着くよ。(佐原さん談)



佐原 滋元(さばら・しげもと)さん
茶亭「さばら」亭主
昭和47年理工学部建築学科卒業。



西原 勝俊(にしはら・かつしき)さん
三根工業株式会社代表取締役
昭和53年理工学部機械精密工学科卒業。
「園内」にある「御成座敷」で会合を開くことがあります。特に夕暮れからは、風情情緒あふれる庭を独り占めできて、時間を忘れましょ。

向島百花園
開園時間 ● 9:00~17:00 (入園は16:30まで)
休 園 日 ● 年末年始
入 園 料 ● 一般および中学生150円/65歳以上70円
(小学生以下および都内在住・在学の中学生は無料)
所 在 地 ● 東京都墨田区東向島3-18-3
電 話 ● 03-3611-8705
交 通 ● 東武伊勢崎線「東向島」下車徒歩8分
(京成押上線、都営バスの利用もあり)



「東京都名所年中行事八月・向島百花園の花その一」
歌川広重(二代)
(東京都歴史文化財団イメー
ジアーカイブ)
江戸後期の向島百花園の
にぎわいが浮世絵に残さ
れている

L 向島百花園 福祿寿

文化・文政期(1804~29年)、佐原鞠塙が隠居した際、交流のあった江戸の文人墨客の協力を得て開いた花園。隅田川七福神はここから始まった。昭和13年、東京市に寄付され、53年に国の名勝・史跡に指定。

E 三囲神社 恵比寿 大黒天

弘法大師が創建した祠(ほこら)を再建しようとしたときに、白狐が現れて、掘り出された老翁の神像の周りを三回回ったことが「三囲」の由来。三井家の江戸の氏神のため、三越のライオン像が寄贈されている。

I 白鬚神社 寿老神

祭神は猿田彦命。明治末期の荒川放水路の開削の際に、現在の地に移された。隅田川七福神の中で、寿老人が見当たらなかったのでも、白鬚大明神の姿に見立て、「寿老神」とした。

G 長命寺 弁財天

徳川三代将軍家光が鷹狩りに訪れたとき急に腹痛に襲われ、この寺の井戸水で薬を飲んで治まったことから、「長命寺」の寺号を賜ったと伝わる。

F 多聞寺 毘沙門天

真言宗の名刹(めいさつ)で、本尊は弘法大師の作と伝えられる毘沙門天。平安時代の創建とされるが、16世紀に現在の地に移された。切絵図の範囲には記載されていない。

F 弘福寺 布袋尊

黄檗(おうばく)宗の寺院。19・20歳の勝海舟が、このころ、禅学を学ぶため修行した寺。幕末の江戸無開城の立役者・勝海舟は、向島より南に少し下った本所の生まれ。墨田区役所前に銅像が建てられている。

隅田川七福神めぐり

佐原鞠塙が開いた向島百花園に集う江戸の文化人たちの発案で始められた隅田川七福神めぐり。切絵図には、七福神を祭る6寺社のうち、5寺社が描かれている。



訪れた人々の舌を楽しませた和菓子「長命寺の桜もち」

享保2(1717)年創業。初代が、大川(隅田川)土手の桜の葉を使って桜餅を考案、長命寺門前で商ったことに始まる。

店内には、ほのかに桜の香り。「桜って塩漬けにして初めて香りが出るとすよ」と落合先生。緋毛氈に腰を下ろせば、待望の桜餅が運ばれてくる。「桜の葉っぱは香りを楽しんでもらうものなので、葉を取ってお食べください」というお店の方のご指示に従って餅を口に運ぶと、桜の香りが鼻をくすぐり、あんなの甘味が口いっぱい広がる。

お茶を飲みながら川松さんが「お店の人が『皮葉っぱをむいて食べてください』って言ったら、隅田川の方を向いて食べた人がいるそうですよ」と小話のような一節を披露。

近くには、在原業平の歌にちなんだ「言問団子」や草餅など、老舗の和菓子屋が、今も江戸の味を伝えている。





すがわら動物病院
院長 菅原 博文先生

昭和55年農獣医学部獣医学科卒業
(すがわら・ひろぶみ) 昭和32年岩手県生まれ。本学卒業後、岩手県・葛巻町畜産開発公社に入社し、約500頭の牛の健康管理、診療に当たる。その後、陸前高田市の農協勤務を経て、平成4年、すがわら動物病院を開業。昨年3月の東日本大震災で病院と自宅を失うが、2カ月後に訪問診療の動物病院として再開。校友へのメッセージ「人生、明日はどうか分りません。今日一日一分一秒を大切に生きてください」。

震災の悲しみに耐えて、 ペットの訪問診療 校友の支えが一步踏み出す力に

岩手県陸前高田市で「すがわら動物病院」を開業する菅原博文先生は、昨年3月の東日本大震災で、自宅、病院、そして「両親を大津波に流された。悲しみの淵にあった先生を再び獣医師の仕事へと向かわせたのは、校友はじめ多くの人々からの温かい支援と励みだった。「訪問診療」というスタイルで、今日も「町の獣医さん」として車を走らせる菅原先生の声をお届けしたい。

全てを津波に 流されたあの日

昨年3月11日。大地震が起こった瞬間、私は動物病院の中にいました。揺れが収まるのを待って隣接する自宅へと走り、両親の無事を確認しました。棚から落ちた物

を片付けた後、ふと海の様子が気になって裏の高台に行くと、砂埃を巻き上げる黒い波が迫ってくるのが見えました。既に自宅に戻る余裕もなく、私は小路を駆け上り、波が引いてから自宅と診療所のある場所に戻ると、建物の基礎だ

けを残して、全てがなくなっていました。たぶん、両親も一緒に流されたでしょう。なぜ、両親を置いて自分だけ逃げてしまったのか…。自問自答を繰り返し、涙が止まらなくなりました。



震災の翌日から避難所生活が始まり、両親の安否確認、遺体安置所での確認の日々が続きました。そんなとき、山形に住む学生時代の同級生が車で駆け付け、「車が買えるときまで自由に使ってください」と車を貸してくれたのです。交通手段を失い1日15キロも歩くこともあったので、その心遣いがありがたくて泣けてきました。

正直、病院の再開を考える余裕などありませんでした。しかし、避難所や安置所で会った顔見知りの飼い主さんたちに「大変だと思いうけど、ペットたちのために病院を再開してください」と声を掛けられ、獣医学科の同級生たちからも「できるだけ支援するから再開できるようにがんばれ」と励まされ

と願わずにいられません。

生まれ育ったこの町で 一歩ずつ前へ

震災直後、行方不明のペットを見つけて涙する飼い主さん、避難所生活のため泣く泣くペットを預ける飼い主さんをたくさん見ました。一獣医師としては、今後またいつ起こるとも知れぬ大震災に備え、ペットの保護施設や一時預かりのできる救護センターの必要性を強く感じています。

その後、学生時代の研究室の仲間、他県の獣医師の方々からご支援と温かい応援をいただきました。角笛会(注1)の方々、わざわざ私のところへ義援金を持参して、「日大の同窓生なんだから、困ったことがあったらすぐに連絡してください」と温かい言葉を掛けてくださいました。日大の絆の強さを感じ、心強く思ったものです。

訪問診療を始めたとはいえ、正直、診療依頼はそう多くありません。それでも、皆さんのご支援に感謝をしながら、その恩返しとして、私はこれからもこの町で、人々に動物と触れ合うことの大切さ、生命の尊厳、ペットと友達になることの素晴らしさを伝え続けていくつもりです。そして、飼い主さんに信頼され、安心感を与えられる獣医師になれるようがんばっていきます。そのためにも、1日も早く以前のような生活を取り戻せるよう、一歩一歩進んで行きたいと思っています。

震災前は、治療したペットの回復が一番の関心事でしたが、今は回復したペットと飼い主さんが元気に散歩している姿に大きな喜びを感じます。「どうか飼い主さんもペットも長生きしますように」

震災前は、治療したペットの回復が一番の関心事でしたが、今は回復したペットと飼い主さんが元気に散歩している姿に大きな喜びを感じます。「どうか飼い主さんもペットも長生きしますように」



飼い主から電話を受ければ、この診療車で駆け付ける。車内には診察台、工具入れをリサイクルした薬品棚などが整備され、基本的な治療には事欠かない。この日は、飼い主さんから体調を崩した愛犬の様子を診てほしいと連絡を受け、診療車で訪問。「やさしい先生なんです。家まで来てもらえて助かります」と飼い主さん



(注1) 角笛会=生物資源科学部獣医学科の校友会の名称
(注2) どうぶつ家族の会=動物が関わる社会の復興を目的とした震災チャリティプロジェクト。獣医師の永田雅彦氏(昭和60年本学大学院獣医学研究科修了)が発起人となり、チャリティ募金活動や支援を行っている。http://www.doubutsu-kazoku.jp/

流鏑馬 (福島県古殿町)



流鏑馬●狩衣(かりぎぬ)・狩の衣装で盛装した役者(射手)が、疾走する馬上から、3カ所に設けられた的に矢を射る伝統神事で、「天下泰平・五穀豊稔」を祈願。古殿八幡神社例大祭(毎年10月の第2土・日に開催)の流鏑馬は、狩又(かりまた)の矢(先が二股に分かれた矢)を使用し、棒に紐(ひも)を結んだだけの簡単な鎧(あぶみ)を足の指に挟み馬を操るなどの特色がある。



(のぎき・よしひこ)昭和30年福島県生まれ。福島県須賀川地方広域消防組合須賀川消防署鏡石分署主幹兼分署長・消防司令長。古殿町流鏑馬保存会理事(広報担当)。昨年、東日本大震災では、決壊した湖に飲み込まれた集落での捜索をはじめ長期にわたる救助や復興活動を行った。子供のころから憧れだった流鏑馬を始めて十数年。馬上での厳しい表情も、孫の颯太ちゃんを抱くと柔らかな笑顔に。

疾走する馬上からの的を目掛けて矢を放つ神事 800年を超える伝統の古殿八幡神社の流鏑馬

野崎 喜彦さん

平成23年通信教育部法学科政治経済学科卒業

馬場を駆け抜ける馬の背から役者(射手)の放った矢が「バーン」と乾いた音を立てて的に命中することに「ウォー！」と沸き立つ歓声。普段は静かな田舎町が一変して活気づくのが、「古殿八幡神社例大祭」の流鏑馬です。流鏑馬の前には、疾走する馬上から社務所屋根の上空目掛けて矢を放つ笠懸も行われます。笠懸・流鏑馬は800年超の伝統がある町の誇りです。 幼いころから笠懸・流鏑馬をやりたいという気持ちはありましたが、走ってくる馬が怖かったものです。馬に乗り始めたのは40歳を超えてから。数年後には役者にも選ばれました。今ではどんなに馬がスピードを出しても恐怖感はありません。その上、友人4人と馬の共同オーナーになり、古殿町流鏑馬保存会で後進の指導も行っています。 これほど流鏑馬にのめり込んだのは、風を切って疾走する馬との一体感、的の真ん中を狙うときの緊張感が魅了されたから。しかし何より、笠懸・流鏑馬を世界に誇れる伝統文化として古殿町から発信したいという思いが一番です。 今年は私の住む地区が例大祭の当番に当たるので、役者として参加します。多くの校友や後輩の方に私の勇姿を見てもらいたいですね。



ボールルームダンスは万国共通の言語 ダンスを通じて世界の人との交流が夢

同じボールルームダンスの指導者として活躍する奥さまと踊る近藤さん



趣味 悠々

近藤 盛一さん

昭和42年文理学部体育学科卒業

「仕事に忙殺されているときこそ、仕事以外に打ち込めることが必要だ」と思い、ボールルームダンス(社交ダンス)を始めました」と、近藤盛一さんは振り返る。54歳のときだった。当時、母校でもある高校の体育教師として授業や部活動に当たるほかに、鳥取県高校体育連盟の体操専門委員長として、いくつもの大会の運営を行うなど仕事に追われる日々だった。そんな多忙な中、自分の時間をつくりながらのダンスレッスンを始めた。 「子供のころから音楽を聞くと浮き浮きと心が躍ったものです。学生時代には既に音楽に合わせて表現するダンスに興味をもっていたんです」と言う近藤さんが、ボールルームダンスに夢中になるのに時間はかからなかった。その上、学生時代は体操部に所属していたという持ち前の運動神経と、体操競技で培った表現力でめきめきと上



競技ダンスで数々の輝かしい賞を受賞。中でも「まなびピア」と「ダンシンググランプリ広島」での優勝は思い出深い

達。地域指導員の資格もわずか5年で取得した。競技ダンスの大会にも出場し、広島大会優勝をはじめ、多くの大会で優秀な成績を収めている。 現在、ボールルームダンス指導者として後進の育成に当たる近藤さん。 「ボールルームダンスは私の若さと健康の源。これからは、大好きな海外旅行で、ダンスを通じていろいろな国の愛好家と交流したい。ダンスがあれば言葉が通じなくても理解し合えます」と夢は尽きない。



(こんどう・もりかず)昭和18年鳥取県生まれ。本学卒業後、母校である鳥取県・米子北高等学校に保健体育の教諭として勤務。体操部やスキー部顧問として選手育成を行い、インターハイ・国体に監督として27回参加。退職後は、放送局に勤務。現職は、大山町教育委員会中山公民館館長。本学在学中は体操部に所属し、東京五輪では競技役員を務めた経験をもつ。

社会に配慮したバイオマス利用 「持続可能な社会」の実現を目指す!



NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク
理事長

泊 みゆきさん

平成元年大学院国際関係研究科博士前期課程修了

(とまり・みゆき) 昭和39年京都府生まれ。本学大学院修了後、(株)富士総合研究所(現・みずほ情報総研)に勤務。地球環境問題に関するリサーチに携わる。平成11年「バイオマス産業社会ネットワーク」を設立(16年NPO法人認定)。その後富士総研を退職。バイオマスエネルギーの持続可能性についての喚起、情報提供に取り組む。小学生と中学生の2児の母。休日は家族で家庭菜園を楽しみ、収穫した大豆で味噌や豆腐を手づくりする。著書に『バイオマス産業社会』『アマゾンの畑で採れるメルセデス・ベンツ』(いずれも共著・築地書館)ほか。

昨年3月に発生した東日本大震災により引き起こされた原子力発電所の事故の後、日本人のエネルギーに対する考えが変わりつつある。太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどの再生可能エネルギーが注目を集め、その可能性に期待が高まっている。泊みゆきさんは、国内で広くバイオマスに注目が集まる以前から環境問題に携わり、バイオマス資源の適切な利用促進に力を注いできたバイオニア。果たして、バイオマスとは何か? バイオマスをどう取り入れていくべきか? さまざまな質問をぶつけて、情熱的に仕事に取り組む泊さんのエネルギーの源に触れた。

ベンツの取り組みに衝撃を受け 団体を発足

泊さんが環境問題に興味をもつようになったきっかけを教えてください。

私は想像力豊かというか、妄想力があるというか(笑)、幼いころからニュースを見ては「今、いったい何が問題なの?」「どうやったら解決できる?」と思いを巡らせるような子供でした。学生時代は当時激化していた冷戦に関心をもち、国際問題の背景を学びました。

やがて冷戦は終わり、「これから注目すべき問題は?」と考えたとき、世の中の流れから、「地球環境問題」だと感じました。就職したシンクタンクでは、地球環境チームに所属。地球サミット(注1)関連の仕事や、企業の環境担当者向けのセミナーの企画、環境庁の受託調査などに携わるうち、環境問題の奥の深さを感じ始めたのです。

—どのようないきさつでNPO法人を立ち上げるようになった

たのですか?

あるとき、資料を見ていてドイツとブラジルの「ポエマ計画」(アマゾン貧困撲滅環境計画)について知りました。これは、メルセデス・ベンツがアマゾンの農村に、ココナツヤシの繊維を使った部品(ヘッドレスト)をつくる工場を建てたことで、職を得た農民が貧困から救われ、森林も守られ、ビジネスとしても成立したという素晴らしい例です。

当時、日本の企業も森林を守るために東南アジアなどで植林をしていましたが、中には地域住民の生活圏を無視した一方的な植林をして、彼らが家や畑を失うという不幸な結果も報告されていました。そのような事態を避けるためにも、「メルセデス・ベンツの取り組みを本にして、広く知ってもらおう」と思い、関係者に取材を重ねて、『アマゾンの畑で採れるメルセデス・ベンツ』を平成9年に出版。ちょうど京都議定書(注2)の合時期と重なったこともあって、

本は話題になりました。その関心を一時的なものにしないために、何らかの形で活動を継続するべきだと思い、11年に「バイオマス産業社会ネットワーク」(BIN)を設立しました。

—そもそも「バイオマス」とは何なのでしょう?
元来、「バイオマス」という言葉は、「バイオ」は生物、「マス」は量で、「生物資源量」という意味の生態学用語です。

近年では、エネルギー利用を目的とする生物資源という意味で使われることが多くなっています。バイオディーゼル、バイオエタノール、バイオガスなどの言葉を耳にすることがあるかと思えます。これらはいずれも、廃食油、間伐材、トウモロコシ、生ごみなどの生物資源から得られるエネルギー源のことです。

ちなみに、人間が太古から使ってきた薪や炭も重要なバイオマス燃料の一つなんです。エネルギー利用以外でも、工業原料、建材、繊維、飼料、肥料など、バイオマスは幅広い用途で使われています。

途で使われています。

普及させるべきは 持続可能な「良いバイオマス」

—BINではどのような活動をされているのですか?
私たちの目的は、バイオマス資源の適切な利用を通じて、環境的・生態的・社会的に「持続可能な社会」を築くことです。

バイオマスと聞くと、それだけで「環境に良い」というイメージをもたれることが多いのですが、実はそれは間違い。バイオマスには「良いバイオマス」と「悪いバイオマス」があって、私たちは良いバイオマスを広めるために普及啓発活動をしています。具体的には、年1回の『バイオマス白書』発行や、シンポジウム・セミナーの開催、講演などを行っています。

—バイオマスに良い悪いがあるのですか? それはどういうことなのでしょう?
悪いバイオマスというのは、採算が取れず、「持続不可能」な

国際環境アナリスト原後雄太氏と共著で出版した『アマゾンの畑で採れるメルセデス・ベンツ』(築地書館)。一方的な援助ではなく、アマゾンの村人と対等なビジネスパートナーとして取引し、産業と環境保護の両立を成し遂げた、メルセデス・ベンツ社の取り組みを追ったルポルタージュ



BINが年に1回発行している『バイオマス白書』。バイオマスに関する最新の動き、今注目すべき問題を取り上げ、一般の人にも読みやすく構成している。 <http://www.npobin.net/>



(注1) 地球サミット
(注2) 京都議定書

平成4年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された、環境と開発をテーマとする首脳レベルの国際会議
平成9年、温室効果ガス排出規制に関する国際的な合意を目的として京都市で開催された「第3回気候変動枠組条約締約国会議」で採択された議定書



泊さんが手にしているのが、メルセデス・ベンツがアマゾンのココナツヤシの繊維でつくったヘッドレスト

推進すべきは持続可能な「良いバイオマス」
日本には森林由来のバイオマスが有効です

すか？
私は青木一能先生(注3)のゼミで学んでいたのですが、スピーチやディベートの技術は、ここでみっちり鍛えていただきました。また、与えられたテーマについて、数人でディスカッションをして発表するという訓練は、就職してすぐに役に立ち、その能力を買われて、希望していた地球環境チームで働くこともできたのだと思います。
そのほかに、発展途上国の貧困や格差などについてもいろいろ学びましたが、これは、環境

問題の背景を考える上で、とても役に立っています。
—— 学生たちにメッセージをお願いします。
就職難で「未来が暗い」と感じている方もいるかもしれませんが、考え方によっては、今よりも面白い時代だと思います。少し前までは、豊かさゆえに「無気力・無感動」などと言われていましたが、今はエネルギー問題、食料自給問題、財政問題、少子高齢化問題など、考えるべきことは山ほどあって、無気力である暇なんてないですから。

常に問題意識をもって、興味のあることを追い掛け、その中で、まだ人がやっていない分野を見つけて挑戦してください。そうすれば、きっとあなたは周囲から必要とされ、意見を求められるでしょう。なぜそんなことを言うかというと、私自身がそうでしたから(笑)。
人生の主人公は自分自身。大学で基礎づくりをしつかりとやって、未来の扉を開いてください。

太陽光やバイオマスなどの自然エネルギーを活用して、被災地に電気・お湯・お風呂を届ける「つながり・ぬくもりプロジェクト」。現在も寄付を募集中。
<http://www.tsunagari-nukumori.jp>

④ マレーシアのサバ州での森林資源調査中の泊さん。バイオ燃料にも使われるオイルパーム農園開発で倒れた象が庭木を倒した様子について聞いている(平成21年5月)
⑤ 月1回のペースで研究会を企画、開催している。事務局の専従は泊さん1人のため準備は大変だが、やりがいは大きい。社会科学や自然科学の面からバイオマスの問題を語る人は日本には少ないため、泊さんは海外のシンポジウムに招かれることも多い(平成18年8月、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロでの国際シンポジウムでの講演)



バイオマスのことです。例えば、バイオ燃料の原料になるトウモロコシやコメを育てる際に、トラクターの燃料、農薬、輸送、エタノール工場の動力などでエネルギーを使います。これは、場合によって生産されるバイオ燃料より、その製造に使われるエネルギーの方が多くなることもあります。エネルギーの生産量よりも消費量が多ければ燃料生産といえませんよね。
また、バイオ燃料ブームで原料になるトウモロコシの価格が高騰し、アフリカの貧しい人々の食料が減り、子供たちに栄養失調が広がるといふ事実。原料のアブラヤシを植えるために、東南アジアの熱帯林を伐採し、先住民の生活圏を脅かすという事態も、「持続可能な社会」とは程遠く、「悪いバイオマス」と言うしかありません。
——なるほど。では、今の日本において「良いバイオマス」とは何なのでしょう？
日本で利用可能とされるバイオマスの半分以上は、森林由来

のバイオマスです。日本の国土の3分の1が森林で、そのうち約4割が人工林です。その資源を上手に利用できれば何よりの「良いバイオマス」となります。
しかし、現状では木材の搬出に必要な林道や作業道が整っていないため、搬出費用が掛かり過ぎるといふ問題点があります。そのため、豊富な資源があるにもかかわらず、日本で供給される8割の木材を輸入に頼っているのが現状です。
低迷した林業を産業として成り立たせ、伐り出した木材を建材としてとことん使う。そうすれば、古くなった木材、間伐材、製材の際に出るおがくずは、熱や発電として利用することができます。しかし、一番効率が良いのは熱利用です。太陽熱や地中熱などの自然エネルギーで足りない部分を木質バイオマスで補うという流れが、最も理想的といえるでしょう。
自然エネルギーを活用してエネルギーのリスク分散

—— 東日本震災後、世の中のバイオマスへの関心の高まりを感じましたか？
ガスや電気などのライフラインが断たれたことや電力供給不足を受けて、以前に増して注目されてきたように思います。
震災時に電気やガスが使えなくなった地域の皆さんが、薪ストーブのあるお宅に集まって暖を取ったり、調理をしたりして、慌てずに過ごすことができたという話を聞きます。薪、炭、木質ペレットなどのバイオマスを利用することは、エネルギーのリスク分散という意味で有効なのは明らかです。
また、昨年4月には国内のNGO・NPO団体とともに「つながり・ぬくもりプロジェクト」を立ち上げました。これは、被災地に自然エネルギーを支援する活動で、BINは薪ボイラーによるお風呂サービスの提供、バイオマスボイラー、薪ストーブ、ペレットストーブの設置支援に協力しています。
—— 仕事で喜びを感じるのはどう

いうときですか？
政策提言などが反映されたときは、やりがいを感ずります。例えば、昨年成立した「再生可能エネルギー電力買取法案」ですが、エネルギーの種類を問わず一律価格で買い取るということは、燃料の種類や地域によっても採算ベースが異なるバイオマスにはそぐわないものでした。私たちはその問題点を提言し続け、結果、何点か修正されることになりました。これは、BINだけの力ではありませんが、多少なりとも貢献できたのであればうれしいことです。
正直、団体の運営は資金面で大変厳しく、収入に関しては社員時代に比べて5分の1に減りました。それでも、やりがいや達成感を考えると、幸福度は5倍くらいアップしていますよ。
ゼミでの厳しい指導がやりがいのある仕事へ導いた
—— 学生時代に学んだことで、今役に立っていることはありま



① 盛岡市の食品加工会社、株式会社兼平製麺所は原油価格高騰を受けて、木屑焚ボイラーによる発電を導入。これによりCO2の排出を25%削減した ② ペレットボイラー。ハウス栽培や宿泊施設など、大型施設の給湯や冷暖房での利用が多い ③ 家庭用ペレットストーブ。火力調整や燃料供給がたやすく煙もほとんど出ないために、都市部での利用が可能

(注3) 青木一能 本学文理学部教授。専門は国際関係論。慶応大学大学院修了後、(財)世界経済調査会専任研究員を経て、国際関係学部で教鞭を執った後、平成15年から現職



古来の健康食品・葛
葛の新しいスタイルを発信する古都の老舗

目に出された奈良・天極堂の葛餅をスプーンですくい、口に運ぶ。モチモチとした舌触り、ツルンとした喉越し。「本物の葛餅は食感が違うでしょ」と話すのは奈良で140余年、吉野本葛を製造する老舗「井上天極堂」の5代目・井ノ上昇吾社長。「天極堂」はその直営店で、自社製葛を使った菓子の販売や料理などを提供している。

奈良県吉野地方でつくられる吉野本葛は、冬の寒気の中で、冷たい水に何度もさらす「吉野晒」という製法でつくられ、色が白く滑らかで、葛の最高級とされている。

葛は昔から良質の植物性でんぷんとして知られ、また、生薬として解熱や鎮痛などに効果があるとされた。最近では「骨粗しょう症の軽減や血中コレステロール低下に効果的な健康食品」としても注目されている。

「葛は使い次第で、とろみをつける、餅状にする、衣にするなど、いろいろと形を変えます。料理にも、菓子にも、何にでも使えるんですよ。ですから、私の店では、葛うどん、葛のロールケーキやプリンもあります。」社長の話を聞きながら、二口目をいただく。

口の中ですくった葛餅から、吉野の冷涼な空気と水が溶け出し、てくるようだ。天極堂の葛はそんな逸品である。

レストランからは、東大寺境内から続く豊かな緑や紅葉が美しく、隠れた癒しスポットになっている。



読者特典
「桜縁見たよ!」で、4種類の「葛湯」からお好みの1個をプレゼント

社名の「天極堂」は「天の恵みを極め、恵みがありたくいただく」という思いから付けられた。化粧品やタオルまである商品の幅広さは、社の姿勢の表れでもある

🎁 井上天極堂の「葛もち」を抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはp.64をご覧ください。

吉野本葛の老舗
井上天極堂

井ノ上 昇吾さん
昭和52年経済学部経済学科卒業 (いのうえ・しょうご) 昭和29年奈良県生まれ。本学卒業後、東京都内の企業に就職。その後、昭和57年に実家で明治3年創業の(株)井上天極堂に入社。平成元年、代表取締役社長に就任する。工場の近代化を進め、小売業にも進出。家訓「商いは牛のよだれ」(注)を守りながら、葛の可能性を追求し、日本古来の食材を次世代に伝えたいと意気込む。

(注) 商売は、大儲けしようとせず、気長く辛抱することが大事であるという意味の語



天極堂奈良本店
営業時間 ● 10:00~19:30 (ラストオーダー19:00)
定休日 ● 火曜日(休日の場合は翌日)
住所 ● 奈良県奈良市押上町1-6
TEL 0742-27-5011
FAX 0742-27-3822
HP ● <http://www.kudzu.co.jp/>



一口メモ
天極堂の「吉野本葛」は一昨年・昨年とモンドセレクションで全賞を受賞。「葛もち」も昨年、銅賞を受賞した。東大寺の西大門跡地にある天極堂奈良本店では、吉野本葛や葛餅のほか、天極堂の葛を使ったさまざまな商品が1階のショップで買える。2階のレストランでは、葛料理から葛のスイーツまで味わえるが、その意外さに驚かされる。

釧路市
釧路ロイヤルイン

阿部 昌雄さん
昭和28年経済学部経済学科卒業 (あべ・まさお) 昭和5年北海道生まれ。本学卒業後、父が経営する東別炭炭鉱と阿部新聞店に入社し、専務取締役に就任。昭和60年、釧路ロイヤルインの前身となる阿部ビルを創業し、代表取締役に就任。現在、阿部新聞店代表取締役会長、北日本広告社取締役。その他、日本赤十字社北海道支部評議員を務める。釧路商工会議所議員会前会長。



施設 ● 地上11階建153室(収容人数207人) シングル126 ダブル7 ツイン20 大会議室、小会議室あり
交通 ● JR釧路駅から徒歩1分 車: 釧路空港から40分
住所 ● 北海道釧路市黒金町14-9-2
TEL 0154-31-2121
FAX 0154-31-2122
HP ● <http://royalinn.jp/>



一口メモ
釧路市中心街の見どころといえば北海道三大名橋の一つ、釧路橋。ここから眺める夕日が素晴らしく、フィリピンのマニラ、インドネシアのバリと並ぶ「世界三大夕日」として市も熱心にPRしている。市郊外では釧路湿原。ここでのおすすめはカヌーを借りての川下り。ガイド付きで初心者でも安心して乗ることができる。豊かな自然の中をのんびりパドリングしていると、タンチョウヅルを見られるかもしれない。



ゲストのリピート率は8割、部屋の稼働率は道内トップクラスを誇る



読者特典
「桜縁見たよ!」で1階カフェのソフトドリンクを一杯サービス

もてなしの心を詰め込んだ評判の朝食 北の大地の旅にいき思いい出を添えるホテル

「最近では霧が街を覆うことも少なくなりましたが、ここからは霧が海から立ち上る景色が見えますよ」と話すのはJR釧路駅前に立つビジネスホテル「釧路ロイヤルイン」の阿部昌雄社長。早朝から宿泊客でにぎわう10階の朝食会場から市街や太平洋を指差しながら、そう教えてくれた。

このホテル、道内でも屈指の人気ビジネスホテルだが、人気の理由の一つが朝食。「パンは10種類以上、毎朝焼き立てをお客さまに召し上がっていただいています。」と話すのはJR釧路駅前に立つビジネスホテル「釧路ロイヤルイン」の阿部昌雄社長。早朝から宿泊客でにぎわう10階の朝食会場から市街や太平洋を指差しながら、そう教えてくれた。

おられます。ご飯やおかずは地元食材にこだわっています。実際、お米なら道産米・ななつぼし、魚なら幻のサケ・鮭児、肉なら阿寒ポークなど高級食材が並び、「私は人(スタッフ)が人(ゲスト)を呼ぶ」ということを社員に徹底しています。これだけの食材で朝食を提供できるのも、スタッフがお客様をもてなすために工夫しながらやっているからですよ」と阿部社長。

にこやかに迎えてくれるフロント、清潔感あふれる部屋、南には太平洋、北には雄阿寒岳・雄阿寒岳の山並みと、素晴らしい景色を眺めながらいただく朝食。釧路ロイヤルインは、北の旅にいき思いい出を添えてくれる、そんな心地よいホテルである。





前橋市長
高木 政夫さん
昭和47年農獣医学部
農業工学科卒業

(たかぎ・まさお) 昭和25年群馬県生まれ。本学卒業後、民間企業へ就職したのち帰郷。26歳で前橋市議会議員に初当選し、群馬県議会議員、群馬県議会副議長、群馬県議会議長を経て平成16年から現職。

厚木市長
小林 常良さん
昭和47年農獣医学部
農業工学科卒業

(こばやし・つねよし) 昭和24年神奈川県生まれ。本学卒業後、厚木市役所職員として19年勤めた後、厚木市議会議員に初当選。その後、神奈川県議会議員を経て平成19年から現職。

大らかな伝統を受け継ぐ学舎で
二つの個性が出会い
友情の絆を強め人生の指針を
固めていった



多感な年頃の4年間を農獣医学部農業工学科の同級生として過ごした両氏。さまざまな体験を共有しながら、共に悩み、語り合い、喜びを分かち合う中で、親友としての絆を強めていった。卒業後、高木さんは会社員、小林さんは公務員へとそれぞれの道に進んだものの、現在は、期せずして市長として市政のかじ取りという重責を担う立場にある。そんなお2人が思い出の地・東京新宿で再会し、青春の日々について語り合った。

包容力があり
居心地のいい家風

小林 クラスの中で気の合う男たちが2人、3人と集まり、いつの間にか7人の「野良犬会」が出来上がって、卒業までの4年間、語り合っては飲んで騒いでもんだつたね。

高木 会のネーミングは私がしたんだけど、その名のおりのやつらの集まりだった。赤羽の小山章、墨田区の高橋徹、国立の西井和夫、前橋の細野安高、四国の橋川良清。このメンバーで小林の実家によく押し掛けたね。

小林 押し掛けたなんてとてもないよ。秋になると実家の稲刈りの大切な人手だった。

高木 ただ酒が飲めて、飯がたらくく食えるというので、私たちは二つ返事で出掛けて行ったんだよ。小林の家は2町歩(約6千坪)の田畑があったから、農作業としては大変なんだけど、おふくろさん心尽くしの手料理と飲み放題が魅力だったなあ。

当時、野良犬会7人そろってよ

一皮むけた男のダボシャツ姿

小林 お久しぶり。こうやって高木とゆっくり話すとは思わなかったな。

高木 本当。電話ではよく話すけど、こうしてゆっくり話すのは3年前の桜門市長会以来かな。

小林 今日は、学生時代のことを大いに話そう。

高木 飲んで騒いで、くらいしかないんじゃないの(笑)。

小林 まあそれについては後でじっくり話すとして。僕らが入学した当時は、学生運動やヒッピー族など、若者の行動が社会の注目を集めた時代だったね。加えて、学園紛争の煽りでキャンパスがロックアウトされていた。

高木 そんな状況ではあったけれども、当時はまだ学生が夢をもてる時代だったように思うよ。高度経済成長の真つただ中で、明るい将来が見えていたし。

小林 そういう時代の中で、たま

たま教室で高木と隣同士になったとき、直感的に「泥臭く純な男」だなと感じて話すようになったんだよ。

高木 私は、小林が同じDNAをもっているように思えて、なぜか波長が合う、というのが第一印象だったな。当時、キャンパスが閉鎖されていたから、6月から海外研究部の実習で北海道へ行ったよ。酪農家の家に50日間住み込み、朝4時半から夜遅くまで乳牛の世話に明け暮れる毎日だったな。

小林 そんな経験を重ねたからかな。確か2年生になったころ、高木がダボシャツ姿で教室に現れて、「おつ、なんか一皮むけたな」と思ったんだけど、あのときはどんな心境の変化だったの。

高木 そんなことがあったかな。ダボシャツのことはよく覚えていないけど、北海道の実習で考えることが多かったのは事実だよ。

小林 僕は高木が北海道で汗を流しているころ、授業で愛知県の犬

山市に1カ月半くらい泊まり込んで、土地改良事業の手伝いをしてきた。そこで圃場整備の重要性について学んだね。

高木 学生生活では、ロックアウトの影響が大きかったなあ。時間はほとんど過ぎていくし、これじや大学に入った意味がないと考え、本来なら卒業と同時に資格が与えられる測量士補の試験を受けることにしたんだ。

北海道から帰ってきて勉強を始め、挑戦したら1回で受かった。案外、一発勝負に強いんですよ、私は(笑)。

小林 僕は大学を辞めようかと真剣に考えたこともあった。実家の農業を継いで両親を早く楽にしてあげたかったからね。でも、大学に行かせる余裕もない中で「おまえだけは行かすよ」と言ってくれた親父の言葉と、大学に行けなかった姉たちの悔しさを思うと、安易には辞められなかった。卒業するのも親孝行だと考え直したよ。



イラスト/なかだ えり
取材協力/新宿・一富士

く新宿辺りで飲んでいたけど、その仲間の腕時計2個ぐらいを質入れて6千円ぐらい手に入れて飲んでいたので、私たちにしてみればとにかくおいしい手伝いだっただよ。

小林 農家以外のせがれもいるわけだから、中にはサボりたくってしょうがないやつもいた。そんな中で、高木は飛び抜けて働き者だった。

みんなが帰った後、父が「高木君は絶対のものになる男だ」とよく言っていたよ。

高木 性格なんだ。同じ手伝うなら、役に立ちたいという。でも、あんなに飲んで騒いで、ご両親は迷惑じゃなかったの。

小林 迷惑だったら毎年声なんか掛けないよ。喜んでいたもの。母は、息子の友達が大勢来てくれるというので、朝早くから料理をつくっていた。親父は「酒だけは浴びるほど飲ましてやれ」という男だから、座敷にテーブルを出して、野良仕事が終わればみんなで食べて飲んで歌って雑魚寝したね。当時でも、若者が手伝いに来る

のがとも珍しかったから、「小林さんのところは、若いのが手伝いに来ていいね」と、近所にうらやましがられたよ。

高木 小林の家には、小林家もつ雰囲気というか、居心地のよさがあつたんだよ。

小林の親父さんからは、「陰徳陽報」注」という生き方を学んだように思うんだ。直接この言葉を教えられたわけではないけど、人に親切にしたり、人を温かく迎えたりという生き方の大切さを、親父さんの背中から学んだ。そんな気がする。常ちゃん(小林さん)からは学ばなかったけどなあ(笑)。

小林 ところで、高木は代田橋で下宿していたよな。

高木 そうそう、6畳一間で便所は共用、風呂なし。大家のおばさんがうるさくて、下宿で飲んだりすることはなかったなあ。

小林 大学で高木に会えなかった日なんか、時々下宿に行つて帰りを待ったんだけど、結局会えずに帰ったこともあつたよ。なぜか不在なのに部屋に入れたんだ。鍵はどうしたんだらうね(笑)。

高木 そんなことあつたの。

小林 うん、野良犬会の仲間と行ったこともあつた。高木はよく勉強していたからだろうか、部屋がきちんと片付いていたのを覚えてるよ。

高木 今と違って、きれい好きだったからな(笑)。

日大のだからかさを 受け継いだ交流

小林 卒業式の日には野良犬会で祝おうと、厚木の老舗高級料亭・元湯旅館で芸者をあげて騒いだよなあ。あの費用をどうひねり出したのか記憶にないんだが、芸者遊びの仕方も分からないのによくやつたもんだなあ。

高木 全員の就職が決まっていたこともあつたし、これからはそれぞれの道を歩いていこう、という節目としてやつたんだよ。富士五湖の西湖へ卒業旅行にも出掛けたなあ。

小林 そうそう、民宿の人に怒られるくらい酒を飲んで大騒ぎした。確か、一番きれいなところへ行こうということで話がまとまっ

たんだが、誰が言い出したのかな。

高木 私だよ。美しい風景の中を、みんなと一緒に歩きたかつたんだ。実際にかんりの距離を歩いたけど、酒もよく飲んだ。常ちゃん

と私で1升だし、橋川なんか1人で1升だし、トオルちゃん(高橋徹さん)もそれくらいは軽いから。

小林 トオルちゃんは、もう浴びちゃうんだから(笑)。

高木 不思議なもので4年間を通して喧嘩したという記憶はないね。そうだろう。

小林 それはお互いを認め合っていたからだと思うよ。

高木 「この野郎」と思うときもあつたんだろうけど。

小林 同じ学舎で学んだということが、小さいことなんかほとんど消していくんだよ。

高木 日大のだからかさを、先輩たちから受け継いでいたんじゃないだろうか。そういう大らかさが7人に共通してあつたんだろうね。

小林 僕は、日大で得難い縁を得たと思う。高木は僕に同じDNAを感じたと表現したけど、それも一つの「縁」だ。縁だから一番強



昭和40年代、お2人が青春を謳歌した新宿の繁華街

い「絆」じゃないかなあ。事あるときには、何をおいても駆け付ける。それが当たり前だと思える間柄だよなあ。

高木 自分をしっかりもって、自分の信じる道を生きる中で、そういう「縁」に出会えるかどうかが大変なことだよ。私もいい出会いを得たと思うよ。人生の終わりに

「常良!」と叫んで死んでいくわけではないんだけど(笑)、やはり忘れ難い出会いだね。

進んで切り開く 困難な道

高木 人生で、もし選択すべき道が2つあつたとしたら、「大変だなあ」という道を選択することに

しているんだよ、私は。でも、結果を振り返るとそういう道を選んだ方が、なぜか結果が良いように思っただ。

小林 そういうときには、自分のことを中心に考えないということだよ。損得で判断したときには結果は良くならない。「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」ということ

に通じるんだと思うね。

そういう人たちが1パーセントでも増えてくれればいい。その旗振り役をやる勇気と覚悟のある人材が今のような時代には求められているんじゃないかと思うよ。そういう思いをつくつたのが学生時代だったよなあ。

高木 私は学生時代だとは思わなけれど(笑)。もともと「社会の役に立ちたい」というような考え方の「芽」をお互い心の中にもっていて、それを小中高生時代を通じて「若葉」へと育て、「つぼみ」を付けたのが18歳から22歳にかけてだと思っただ。日大が「つぼみ」へと育ててくれたのか、私や小林がもともとそういう「芽」をもっていて育てたのかは分からないけど、人との出会いという「縁」が日本大学の中にあつたことは間違いない。

小林 そのとおりだ。高木とは話が尽きないけれど、また大いに飲み、かつ語り合いましたよ。高木 そうだね。こうやって小林と話すと楽しいし、元気になれる。またやりましょう。



東京・三軒茶屋にあった農獣医学部東京校舎の正門。お2人はここで学んだ

注) 陰徳陽報
人知れず善行を積めば、必ず善い報いとなって現れてくるという意味



昭和40年前後、農業工学科で行われていた測量や製図の実習の授業風景

夢に向かって!

石垣の海のように輝く色彩に魅せられ 31歳で飛び込んだ陶工の世界

石垣焼窯元 陶工 工藤進也さん
平成14年工学部土木工学科卒業



銀色の星の世界に現れる、石垣の海を映したようなマリンプールとエメラルドグリーンの輝き。その対照的な景色が心を揺さぶる石垣焼。いにしへの中国の陶工が生み出し、茶人や戦国武将に賞ばれた油滴天目模様と、現代の陶工が可能にした陶土とガラスの融合により現れる鮮やかな色が、小さな世界に共存する焼き物である。

現在窯元では、昼は工房併設のショップで石垣焼の説明に立ち、販売を担当しているが、「自分のつくったものが売れる瞬間はうれし」と語る工藤さん。土に触れるのは主に閉店後。練った土を板状に成形した「タタラ」から箸置きや平皿をつくる。



(くどう・しんや) 昭和54年宮城県生まれ。本学卒業後、土木・建設会社に就職。平成21年、石垣焼窯元に就職し陶工を目指す。一昨年、東京の老舗料亭で行われた石垣焼窯元の皿と料理のコラボレーション企画で使用される皿の成形を担当。昨年、フランス・パリで開かれた展示会の出品作品の一部も成形した。モットーは「やりたいことは、やってみる」。



東京の老舗料亭との企画で使用された皿を手にする工藤さん

石垣焼窯元
住所：沖縄県石垣市名蔵1356-71
TEL:0980-88-8722
営業時間：9:00~18:00
(陶芸教室受付は16:00まで)
休日：無休
交通：石垣空港から車で約25分
石垣市内から約15分
HP：http://www.ishigaki-yaki.com/
石垣焼窯元は平成11年にオープンした新しい窯。併設のギャラリーを兼ねたショップでは作品を展示即売のほか、「石垣焼体験コース」や「シーサー作り体験コース」など陶芸教室を開催する工房が併設されている。



トップの肖像

農業生産法人 有限会社 トップリバー
代表取締役社長

嶋崎 秀樹さん

昭和57年農獣医学部水産学科卒業
(しまさき・ひでき) 昭和34年長野県生まれ。本学卒業後、大手食品メーカーに入社し、営業マンとして多忙な日々を過ごす。昭和63年に退職し、佐久青果出荷組合に入社。(後に社長就任)。平成12年にトップリバーを設立。安定供給の契約栽培を柱に、もっかる農業を実践して注目を集める。「従業員が幸せになることが自分の幸せ」と語り、人材育成に情熱を注ぐ。20代のころから掲げる座右の銘は「精神一到何事か成らざらん」。

ニーズに応えた契約栽培で農業に新風 若者よ、来れ!もっかる農業へ!

食の安全や癒やしを求めて、家庭菜園やグリーンソートリズムへの注目が高まっている。その一方、日本の食生活を左右する、生業としての農業には、いまだ「もっかるない」というイメージが色濃い。そのマイナスイメージを打ち破り、もっかる農業を実践する情熱あふれる人物がいる。トップリバー社長・嶋崎秀樹さん。他業界では当たり前だったマーケティング(注)の考え方を取り入れ、閉鎖的な農業界に新風を吹き込んだ。人材育成を第一に考え、農業を志す若者に厳しくも温かいまなさを注ぐ。「10年後の農業は変わる! 変わっていかなくてはいけない!」。熱っぽく語る嶋崎さんの農業にかける思いに触れる。

(注) マーケティング「良いものをつくれは売れる」という考え方はなく、顧客の要望を詳細に求める数だけ提供していく経営姿勢のこと。



工藤さんが制作した石垣焼の「マンタの小皿」を抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはP.64をご覧ください。



▲(右)第一農場長・西根祐輔さん・32歳。故郷の鳥取で今年独立予定。「大事に育てた野菜を納品してお客さんが食べてくれることがうれしい。独立したら人を雇って規模を大きくし、顧客のニーズに応えた農産物をつくっていくつもりです」。(中)第二農場責任者・中野祐介さん・30歳。(左)同農場長・上村健一郎さん・40歳。中野さんは環境分析の仕事から、上村さんは弁当屋経営者からの転職。「独立したいという強い思いがあるからがんばれます」(上村さん)。

◀5月から10月までの収穫時期、研修生たちは休みなく働く。朝5時から昼までは収穫作業、午後は草取り、植え付け、その日の出荷量を入力するなどの事務作業をこなす。帰宅するのは6時過ぎ。ハードな毎日だが研修生たちはみんなエネルギーで明るい。取引先は、6(外食系加工用)：2(生協)：2(スーパー)の割合。外食系では歩留まりが高いもの、生協は農産などの安全性、スーパーは味と形など、それぞれに要望が違うため、顧客に合った生産出荷方法をとっている。

閉鎖的な農業に違和感 相場中心から契約栽培へ

長野県・浅間山の麓に広がる広大な農地。その一角で、手際よくキャベツを収穫し、コンテナに積み込む若者たちの姿があった。農業生産法人「トップリバー」の研修生(正社員)たちである。ほとんどが農業のド素人だったが、将来農業経営者として独立するためにここで経験を積んでいる。

「思っていた農業と違って面白い」「ちゃんとやれば食べていける世界だと分かった」「地域産業の担い手としてきちんと納税できる農家になりたい」。口々に語る彼らの表情は、農作業の疲れをにじませることもなく、実に生き生きと輝いていた。彼らを導くのは、社長の嶋崎秀樹さん。日本の農業界に革新をもたらした人物である。嶋崎さんが農業の世界に飛び込んだのは29歳のとき。大手食品メーカーの営業職を辞め、義父が営む青果物卸「佐久青果出荷組合」に転職した。近隣農家から野菜を仕入れて市場に卸すという事業だ

が、市場に手数料を払うといくらも利益が残らず、相場が下がればさらに経営は逼迫した。そこで、嶋崎さんはコンビニやファミリーレストランと直接契約して出荷する「契約栽培」に踏み切った。決められた日に決められた量の野菜を出荷するのが契約栽培だが、「収穫は天候次第」と主張する古い体質の農家に協力は得られない。

「企業にいたころは、計画生産・計画出荷が当たり前だったのに、農業の世界にはその概念がなかった。農家は生産物に誇りはあるにしても、数量や安定して出荷するという点に無頓着なんですよ」。そこで、足りない分は遊休農地を借りて自社生産することを決断。平成12年、こうしてトップリバーは産声を上げた。

生産1000+営業2000の力で 顧客を満足させる野菜づくり

1年目は農業経験のある農家の子弟たちを集めて挑戦するが、目標の収穫量を達成できず失敗。2年目は思い切って農業を志す素人の若者たちを採用。固定観念にと

らわれず、朝から晩まで全力で働く姿に嶋崎さんは胸を打たれた。しかも、収穫目標を見事にクリアし、トップリバーの方向性が間違っていないことを証明した。現在に至るまで、トップリバーは赤字を出したことがない。その秘密は、これまで農業がおざなりにしていた「営業販売」への努力にある。

「生産技術が1000なら営業販売には2000の力を注ぐ必要がある。これまで野菜はつくるだけつくって売るのは市場任せ。それじゃ、もうかるはずありません」。

営業部隊は収穫が終わる11月から始動し、外食産業、加工業者、スーパーなどの顧客から翌年の数量、大きさ、農薬の使用条件などのさまざまな要望を聞き、約50軒ある協力農家と自社農場の収穫計画を立てる。生産部隊はその計画に沿って翌年の準備を進めるので安定した収益が見込めるのだ。

それでも天候に左右されて数がそろわないこともある。そのときは、市場から買ってでも納品する。たとえ損を被っても「契約は死守

する」という姿勢は顧客の信頼を集め、「安定供給のトップリバー」というブランドを確立した。

「水戸黄門」を育てて 組織農業の輪を広げる

設立9年目には年商10億円を超え、その後も順調な歩みが続けるトップリバーだが、目的は会社を大きくすることではないという。「日本の農業をどうにかしたい。そのためには人材育成が急務です」。嶋崎さんの語気が鋭くなる。

トップリバーでは、短期研修・長期研修・研修生(正社員)という形で、農業の生産・経営を実践的に学ぶことができる。もちろん、その間給与が支給され、研修生にはボーナスも支給される。他の農業生産法人に比べても手厚い待遇は「農業はちゃんとしたやり方でやれば必ずもうかる」ということを伝えたいから。独立後はトップリバーに出荷するもよし、好きな場所で独自の農業をやるもよし。困ったときは親心でのサポートも惜しまない。「農業の『水戸黄門』になれるリーダーをたくさん育て

て、各地でどんどん独立してもらいたい。彼らがその土地で人材を雇用すれば地域が活性化し、そこで新たな水戸黄門や助さん格さん格のようなサブリリーダーが育ちます。そして、助さん格さんが独立して、同じ流れを繰り返していけば、日本の農業全体が活気づくと思うのです。そのためにも、夫婦だけの「個人農業」ではなく、人を雇用して行う10人以上での「組織農業」であることが重要なんです」。

食料自給率を上げるのは 「農」ではなく「農業」

「日本の農家は現在約260万世帯。しかし、その8割は利益が出ていません。それは「農業」ではなく「農」です。「農」が増えても日本の自給率は上がらない。生産力があり、雇用可能、地域活性化につながる「農業」を増やすことを考えなければ」。

る農家を増やすためには、経営感覚をもった生産者の育成と同時に、「農業コーディネーター」の育成が重要だと語る。「農業コーディネーター」とは、顧客の需要をキャッチしてそれを農家に伝え、つくった野菜を適正価格で購入してもらうための橋渡しをする職業のこと。嶋崎さんはこの職種を広めるため、全国の志ある若者たちにアドバイスを始めている。こうして、嶋崎さんのDNAを引き継いだ若者たちが全国に羽ばたき、「もうかる農業」を実践し始めている。「夢は農業で幸せになる人を増やすこと」と語る嶋崎さん。その思いは着々と全国の畑に種を落とし、今、ゆっくりと力強く芽吹き始めている。

企業データ
農業生産法人 有限会社トップリバー
設立 平成12年5月
本社 長野県北佐久郡御代田町大字御代田3986-1
TEL 0267-32-2511 FAX 0267-32-6670
資本金 1000万円 売上高 12億円(平成22年)
生産品目 レタス、キャベツ、グリーンリーフ、サニーレタス、白菜
自社農場 御代田、富士見農場(共に長野県)に加え、昨年より千葉県、静岡県にも農場を拡大。合わせて約30ha





企業経営の経験と
発想で市政に挑む
将来に誇れる
まちづくりにまい進

首長に聞く

福岡県飯塚市市長
齊藤守史さん

昭和46年商学部経営学科卒業

(さいとう、もりし) 昭和23年福岡県生まれ。本学卒業後、半年間水産会社で働いた後、父が共同創業者の一人である一番食品(株)に入社。昭和51年専務取締役、平成8年取締役副社長、10年に代表取締役社長に就任。22年に会長となる。18年に飯塚市長選挙に当選し、現在2期目。経営者時代は飯塚商工会議所副会頭、福岡経済同友会常任理事をはじめ、地元学校のPTA会長や筑豊地域推進部会長等、20を超える公職を経験。座右の銘は「我以外皆我師也」。



お達者通信

医療法人社団椿診療所 理事長

椿弥一さん (つばぎ・やいち)

(大正9年生まれ・91歳)

昭和19年医学部医学科卒業



8年前奥さまを亡くされてから、独身生活が続けてきたが、このたびすてきなパートナー(中)を見つけられた



千葉県佐原出身で、野球部の甲子園出場で名高い銚子商業高校OB。「家業の織物業に将来はないと考えて医者を目指しました」

人々に寄り添い、命を慈しみ続ける
東京の下町に信頼を築いた医師人生

昭和23年浅草・日本堤に開業し、60年余にわたって地域医療に専心、今も週4日診療に当たる椿弥一さん。「戦争で免疫ができたのでしよう。開業以来、風邪一つひかずに元気に過ごしています」。昭和19年10月に大学を繰り上げ卒業。軍医として満州の部隊へ配属されるが、単身満州に向かう途中でマリアを発症し、部隊に合流するまで4カ月、大陸をさまよった。「大学では軍事教練ばかり。症例と治療の技術は戦場で学びました。度胸もつきましたよ。おかげで怖いものなし(笑)」。

戦後開業した診療所には患者が列をなした。「救急車がない時代は真夜中でも往診や診療が日常茶飯事。大忙しでした。来る者拒まず。極道の刃傷沙汰にも毅然と対応した。昭和52年から6年間、浅草医師会会長を務め、当時の医療問題に真っ向から取り組んだ。80歳を過ぎてパソコンを操り、インターネットやメールを楽しむ。そして昨年4月、90歳で3カ月半に及ぶ世界一周の船旅へ。旅行中に洋上で91歳の誕生日を迎えたが、なんとこれが新婚旅行! 洋上で結婚式を挙げた。

健康の秘訣は「きちんと眠ること」。アルコールも、少量だが毎晩楽しむ。「この調子なら100歳までは診療できる」と笑う椿さん。患者さんを癒し続けてきたこの笑顔が、今、すてきな奥さまに注がれている。祝!

■ 首長に聞く

社長から市長の顔へ
市長になるまでは全国を飛び回り、売り上げの数字を見ながら、得意先とのビジネスを考える毎日だった。「企業人として、地元の活性化については議論していましたが、行政に対しての意識は薄かった」と言う齊藤市長。しかし、地域経済のリーダーとして、多く

産業創出、起業にも意欲的。炭鉱閉山以降、飯塚市では大学誘致に力を入れ、現在では3つの大学を有する「学園都市」としてのイメージが定着している。この「大学力」を生かした地域経済の活性化を目指し、平成23年3月、「産学官金連携の協力推進に関する覚書」を締結。「産学官」に「金融機関」を加え、起業家や企業が直面する資金調達・技術開発・人材育成等の課題等に対してサポート可能な総合支援体制を敷いた。

「小さな会社でも資金がなければつくれませんからね。大学発ベンチャーへの資金調達相談などを実施し、若者たちの起業への支援をしていきたいと思っています」。

地域と人々の魅力と能力を花開かせる

市長になるまでは全国を飛び回り、売り上げの数字を見ながら、得意先とのビジネスを考える毎日だった。「企業人として、地元

の公職に就いた経験が今、ものを言っている。PTA会長もしたり。当時、学校や保護者間で起こるさまざまな問題をPTAで取り上げ、検討した経験が教育に関する知識の素地をつくった。

「学力向上だけでなく、社会に出てしっかりと生きていけるよう、人間関係がきちんと築ける指導も大切です」。子供が生き生きと輝くまねを目指したいと言う齊藤市長。

目下、市長の激務の支えになっているのは、博多に嫁いだ娘さん一家を訪ね、孫の相手をしたり、ご夫婦で散策すること。「社長職の方が自由な時間があったね(笑)。今は、家族との時間が安らぎです」。

齊藤市長が小さいころ、「肩がぶつかり合うほど混雑していた」中心市街地も、郊外店の出現や後継者不足で疲弊の度合いが高い。平成20年には火災にも見舞われ、現在、その跡地を活用した拠点づ

くりを検討している。また10年後には3人に1人が高齢者になる市の現実を見据え、新たなまちづくりに着手。「中心市街地には50もの医療機関があります。それらを活用して、SWC(注)のまちづくりができないか勉強を始めています。皆が健康で元気に暮らせる『歩いて健康になるまちづくり』を目指したいですね」。

博多駅まで電車で約40分の地の利に加え、炭鉱時代に培われた地域の結束力はまだまだ健在。市民によるボランティア活動も盛んな地域である。

職員の意識も変わってきた。今、市役所のあちこちで「気持ちのいいあいさつ」が聞こえる。就任から今まで、市長自らが「おはよう」「お疲れさま」と声を掛け続けた結果である。企業経営で培った経験が、行政の現場に静かな変化をもたらした。この変化は新飯塚市の大きな変革を予感させる。

(注) SWC (Smart Wellness City) 構想
ウェルネス(健康)・生きがい(まち)、安全安心で豊かな生活を営むことのできることをまちづくりの中核に位置付け、住民が健康で元気に暮らせる新しい都市モデル



合併後、地域を一つにまとめるため、支所単位の地域や町内会でタウンミーティング(上)を実施し、意見交換を行った。現在は、「お弁当代500円をいただいて」ランチミーティング(下)を実施



旧伊藤伝右衛門邸は炭鉱王・伊藤伝右衛門と歌人・柳原白蓮の逸話に彩られた瀟洒な邸宅。市が購入、管理を始めた年を飯塚市の観光元年と定めた。「雛のまつり」の会場となるなど、観光事業の拠点となっている



雛のまつりは商店街のおかみさんたちが中心となって実施する観光イベント。昨年は32万人でにぎわった



「いつかどなたか宿場まつり」長崎街道筑前六宿の一つであった飯塚宿の歴史にちなんで開催。齊藤市長は殿様に扮して、イベントを盛り上げる



炭鉱時代にぎわいを今に留める芝居小屋「葛穂劇場」。現在も多くの芝居やショーが行われている



地域に恵みを与えてくれる遠賀川の清掃活動「I LOVE遠賀川」。多くの市民が積極的に参加している
石炭採掘の象徴ともいえるボタ山も、採掘を終えてから数十年たった今、緑生い茂る山となった

経営者の視点で取り組む徹底した行財政改革

今回の取材を受けて、四十数年ぶりに商学部を訪ねたという齊藤守史市長。「駅もまちも様変わりして、下宿の場所も分かりませんでしたよ。あのころは学食の地下にあった医務室がたまり場で、よく友人たちと語り合ったもので。彼らも私の市長就任にはびっくりしたでしょう。私自身が一番びつくりしているのですから」。

まず実施したのが徹底した行財政改革。「職員1200人を前に、『皆さんの机の引き出しを開けてみてほしい。筆記用具が何本ありますか?』と身近なところから節約を呼びかけました。同時にこれらの行政に市民の協力は不可欠と訴えた。結果、事務の合理化、民間活力の導入などにより、約30

そこに、周囲から市長になってほしいという強い要望が出てきたのである。「会社のこともあり、悩みましたが、生まれ育った飯塚への思いも強く、決断しました」。

飯塚市のもつ可能性を感じ取り、将来を信じた経営者の決断であった。

事業成功の鍵は「おもてなし」の心遣い

平成15年、県が打ち出した「北部九州自動車150万台先進生産拠点推進構想」の下、飯塚市は工業団地を開発。齊藤市長は名古屋に事務所を開設し、2名の職員を常駐させ、企業誘致に特化した活動を展開した。「経営者時代、住民との接点をつくり、前向きに動いてくれた地域に工場を建てた経験があります」と齊藤市長。誘致には企業を迎える行政と住民に「もてなし」や「思いやり」の心が必要であることを知っていた市長ならではの施策である。

0人の人員削減、180億円の節減を達成する。齊藤市長は従来の行政の発想から脱却、「株式会社の」発想で市の未来図を描き始めたのである。

商学部で経営を学ぶ木村涼子さんは、高校生のころから趣味でパンづくりを楽しんできた。大学に入学し、東京での生活を始めてみると、個人経営のパン屋がたくさんあることに気付く。そして、漠然とだが「いつかは私もパン屋さんを開いてみたい」という夢を描くようになった。塚本雅之さんは、56年の歴史をもつ老舗パン店の経営者であり、木村さんの夢を実践している大先輩である。塚本さんのお店を訪れ、パンづくりを体験しながら、パン屋経営の楽しさ、難しさを教わった。

種類は豊富に用意してお客さまに喜んでもらう

— 大学に入学して東京に出てきたとき、パン屋の数の多さに驚きました。それに種類もたくさん。「ときわ堂食彩館」さんのパンも本当に種類が豊富ですね。どのように商品を開発していますか？

うちの店では1日120種類のパンをつくっています。うちでは食パンのような定番パンと、毎月、その時期に合った新商品を含めた季節商品を並べています。私だけでなく、スタッフそれぞれが「今の季節ならどんなパンが売れるだろうか」と考え、アイデアを持ち寄り、試作して、商品ラインアップに乗せていくんです。新商品でいつもお客さまに目新しさを提供

することはもちろんですが、新商品を定期的に発売することは、職人のレベルを上げるためにも必要なことです。毎日、同じものだけをつくっていいは、職人たちも成長を実感できません。商品開発をさせ、自分の技術レベルでできるものなのか、お客さまが買ってくれるものなのか、を考えさせるようにしています。

— どうしたら、ときわ堂さんのような繁盛店になれますか？

いや、今はコンビニの登場で、けっこう大変なんですよ（笑）。パンを手軽に買えるだけでなく、おにぎりというライバル商品も売っている。今は、パン屋同士が情報交換することで、共存していく時代になっています。うちの店は、当初、和菓子と洋



パン屋の仕事

お客さまの視点からお客さまのニーズを考えること
人を育て、従業員のモチベーションを高くすること
商売の成功の鍵はここです



有限会社ときわ堂製パン代表
塚本 雅之さん
昭和53年法学部政治経済学科卒業

(つかもと・まさゆき) 昭和30年東京都生まれ。昭和54年、父が29年に創業したときわ堂に入社。平成9年、それまで扱っていた和菓子、洋菓子の製造販売をやめ、商品をパンだけに絞る決断をし、店名を「ときわ堂食彩館」と改める。東京都パン商協同組合会長を務め、業界発展にも尽力する一方、小中学生に職業体験の場を提供するなど、地元社会へも貢献。家族との時間を大切にしながら、毎日、二十数人のスタッフとともにパンづくりに励んでいる。



菓子もつくっていました。しかし、私が大学を卒業し、店に入ってすぐに和菓子をやめ、パンと洋菓子の店になりました。ところが、ある日、小学生だった娘の友達がポツリと言ったんです。「なんで、パン屋さんなのにケーキをつくっているの？」ってね。ハッとしました。時代はバブル崩壊後で、商品を絞り込んだ専門店に関心が高まっていました。

そこで、今後の市場を見据えて「パン専門店にしよう！」と思い立ちました。脳をパンだけのために使った方が、もっとすごいことができるのではないかと。そうしたら、ガーンと売り上げが伸びていきましたよ。

自分のつくりたいパンより
お客さまのニーズを優先

— パンに絞り込んだだけで、売り上げは伸びたのですか？

いいえいえ（笑）。やはり、考え方の転換をしたからだと思います。私はパンをつくるのが好きで、父の店を継ぎましたが、そのころはヨーロッパ系のおしゃれなハイ

ド系のパンをつくりたかったのです。でも、お客さまが求めるのはメロンパン、あんパン、ハムやチーズなどの調理パン。人の食とは案外と保守的なんです。これに気付き、自分のつくりたいパンではなく、お客さまが食べたいパンを主力に品ぞろえをするように考え方を変えました。マーケティングの勉強もずいぶんしましたよ。

— マーケティングというと、具体的にどんなことをされたのですか？

例えば、商品を並べ、お客さまにパンを選んでもらう場所のことを「売り場」と言いますが、お客さまからすれば「買い場」なんです。以前は、厨房から店を見ていました。マーケティングを学んでからは店から厨房を見るようにしました。パンづくりも大切ですが、厨房や職人がお客さまの目にどのよう映るかを考えることもひとつと大事なことです。

それから、閉店時間まで、少なくとも定番商品を100個残しておくようにしています。売り切った方がロスがなく、商売的には



パン工房ときわ堂食彩館
東京都足立区興野1-11-8
TEL: 03-3848-2255
HP: <http://tokiwado.co.jp/>
交通: 京成線西新井駅より徒歩8分
安心して食べられるパンづくりを目指し、昔懐かしいコッペパンから、カレーパンやあんパン、フランスパンまで毎日120種類を提供。



パンの店トップ 店長 宮嶋 秀樹さん

平成4年商学部経営学科卒業

(みやじま・ひでき) 昭和45年岐阜県生まれ。本学卒業後、父が創業した「パンの店トップ」に入社。両親の下でパンづくりと経営を学ぶ。その後、他店のパンの製造法や商品を勉強するため数店のパン店に勤めて、修業。37歳で再び店に戻り、現在は昨年引退した父の後を継いで店長に。激化する競争の中でも、地元の人に愛され続ける店を維持するため、お客さまの趣向のりサーチと新商品の試作に余念がない。



パンの店トップ
岐阜県多治見市金山町11
TEL: 0572-22-0433
HP: http://47.jp/top/
交通: JR多治見駅より車で約5分
メロンパン、バターロールなど開店当初から変わらない懐かしい味の手づくりパンのほか、天然酵母食パン、たじみそ焼きそばロールなど新商品も充実。



昔ながらの味と時代に合った工夫 世代を超えて愛されるパン屋に

パンの店トップができたのは昭和46年。陶器店を営んでいた父が、一念発起してパンづくりを学び、高価な機器を導入して立ち上げました。店名は母が「パン屋の頂点を目指そう」と、トップと名付けました。今も工房には、当時から



仕事は毎朝6時半に開始。宮嶋さんが生地を仕込み、分割しているそばで、母親の菓子さんがパン生地にクリームを塗ったり成形をしたりと息の合った作業が続く

使っているオーブンがあり、母は今でもパートさんと一緒にパンの成形を手伝っています。パンづくりで難しいのは温度調節です。パンの練り上げ温度を一定にするために、水温を調整しますが乱れ、焼き上がり時間も違ってしまいます。毎日、同じことを同じように繰り返すのはなかなか大変です。でも「このパンが一番美味しい」と言ってくれたり、昔ながらのメロンパンを遠くから買いに見えるお客さま、また親子三代でご愛顧いただいているお客さまの存在は、大きな励みです。しかし、スーパーやコンビニでのパンの販売や小麦価格の高騰は街のパン屋にとっては大きな問題です。それに対抗するには、経費節減は大切なこと。製パン食材展示会を訪れ、商品の種類を豊富にそろえながら、材料費を抑えられるような素材探しに努めています。また、私が店長になってからは、アレルギーに対応した卵を使用しない天然酵母食パンや、町おこしのために多治見市で誕生した「たじみそ焼きそば」をホットドッグ仕立てにした新商品も考案しました。こうした集客力を上げる工夫も欠かせません。今の目標は「1日100個売れるヒット商品をつくる！」です。父の代からあるバターロールは、今も100個近く売れています。が、私もそんなお客さまに愛されるパンをつくりたいと思います。

いのですが、閉店までパンを買いに来てくださるお客さまに、買うものがないということにならないようにしたいのです。

商売は「人づくり」 これが何より大切

「スタッフの方々には、どのような教育をされていますか？ 私もアルバイトをしています。どこでもマニュアルがあつて、それに従うことが多いのですが……」

「商売には「物、金、人」がなくてはなりません。物、金はお客さまから集まるとして、結局は「人」を維持するのが一番難しいし、そこに一番やりがいがあります。「人」がいなければ店は成り立たない。「人」を育てることができれば、商売はなんとか続けられるのです。いいパン職人が育てば、私がお世話になってきたパン業界にも恩返しができます。」

「マニュアルで仕事が一人前にできるようになることはあつても、一流にはなりませんよ。職場では、職人たちのレベルを上げるために、それぞれのレベルより少し



高い目標を設定させます。先ほども言いましたが、新商品の開発もみんなからアイデアを募集しています。そこで、自分の力量を知り、成長してもらいたいのです。人材教育は子育てのようなもの。パン屋である前に、私は人間として成長してもらえるように、スタッフと接しています。おかげで、数年修業して独立する人が多いパン業界ですが、社員もパートさんも勤務歴が10年くらいと長いんです。何より、みんなががんばろう！という気持ちで、仕事は楽しくしたいですね。巣立っていった弟子たちが、時々遊びにきてくれるのが、何より幸せです。」

「私は趣味でパンづくりを楽しんでいます。もし仕事にするなら、専門の学校に通った方がいいのでしょうか？」
「製パン専門学校を卒業している」と、就職のときに若干は有利かも

「しれません。でも、私は本人に「がんばりますよ」という気持ちがあればオーケー。お金を払って学ぶより、叱られながらも、お金をもらって学ぶ方がいいですよ？ 私自身もケーキづくりはケーキ屋で修業し、パンづくりは父を手伝いながら習得しました。」

「私が人を雇うときに見るのは、やる気やパン職人になりたいという熱い思い、そして食べ物を扱うのですから清潔感があるという点です。加えて、ものづくりをする人は、優しい方がいいですね。」

「私がやってみたいのは、パンの移動販売です。難しいですか？
うーん、あれは難しい。仲間移動販売に挑戦した人は、皆やめてしまいました。販売する場所を見つけるのも大変だし、その場所が近所のパン屋の迷惑にならないような配慮も必要。パンの鮮度も落ちてしまいます。」

「ただ、思っていることはやってみなきゃ駄目。やってみて、失敗しなきゃ、前進はできませんよ。塚本さんはお仕事をされているとき、とても生き生きされていますが、いつも高いモチベーションで働けるのはどうしてですか？
これもスタッフたちに勤めていますが、私は5年先、10年先の目標を書き出すようにしています。目標が車を購入することなら、車の写真を、別荘が欲しいなら理想の家の写真を貼ります。あとは有言実行。自分を追い込みます。これは先輩から習った方法です。おかげさまで、車も別荘もビルも手に入れましたよ。夢を実現するために、木村さんも試してみてください。いかがですか？ 壁にぶつかったら、いつでも相談してください。」

「はい！ ぜひ、私もやってみたいですね。今日は厨房で作業もさせていただきましたが、そのスピードに驚きました。趣味のパンづくりとは比べものになりませんが、スタッフの方々も私でもできることを考えてくれて、親切に指導してくださいました。パン屋で働くということはパンづくりだけでなく、「人づくり」という塚本さんの言葉に納得です。パン屋開業の夢に少しだけ近付けた気がします。」



木村 涼子さん
商学部経営学科2年

塚本さんにパンづくりを体験させていただき、いろいろお話も伺って、一番強く感じたことは、「やらなければ何も分らない」ということでした。「仕事を任せられる」ことでもたらされる緊張感と達成感、教科書や授業からでは学ぶことはできません。大学生の今、さまざまな経験を積み、自分を成長させていきたいと思いました。また、ときわ堂の皆さんの「お客さまの視点を大切にしたい」という気持ちが、こんなにもお店を明るく、元気にすることに感動しました。そしてより一層、パン職人への憧れが強くなりました。ときわ堂食彩館の皆さん、ありがとうございました。



パン屋の仕事

日本初！グルテンフリーの米粉100%のパンの商品化に成功
米粉文化を世界へ発信

昨年3月1日より、わが社が製造販売する商品に使う粉を小麦粉から米粉に切り替えました。日本で自給率100%の食品は何かと考えると、やはり米。「日本の将来のためにも、これからは米粉に力を入れよう」と決意しました。

お客さまからご好評をいただいていた洋菓子の原材料を「全て米粉に切り替える」と言うと、家族からは猛反対しました。しかし、息子だけは、「親父には大きな考えがあつてのことだから、僕は賛成だ」と言ってくれました。うれしかったですね。経営的にも、中小企業が生き残るには、得意分野を絞り込み、私の会社では米粉、そこから派生する商品を高品質にすること、多品種することが大切だと考えてのことでもあります。

小麦グルテンを使わない100%米粉のパンは息子が試行錯誤の末、商品化に成功したものです。

小麦粉と違い、膨らむ力のない米粉でパンをつくるには、通常、小麦グルテンを添加します。しかし、それでは小麦アレルギーの人は食べられません。何度も失敗を繰り返した後、数種類の米粉をブレンドし、ごく原始的な製法で焼き上げてみると、外はパリッと香ばしく、中はしっとり軟らかなパンが出来上がったのです。注文販売を始める、「小麦アレルギーの息子が初めてパンを食べることができました」、「子供が保育園のみんなと一緒にパンを食べられるようになりたい」というお声をいただくようになりました。

欧米でも小麦アレルギーに悩む人は多いと聞きます。米粉パンのターゲットは日本のみならず、海外へと広げられると思います。日本が誇る米を使い、米粉文化を世界に広めたい、今はそんな夢を描いています。



小城製粉株式会社代表取締役社長
小城 年久さん

昭和46年生産工学部工業化学科卒業
(こじょう・としひさ) 昭和23年鹿児島県生まれ。本学卒業後、農林水産省食品総合研究所で学ぶ。脱酸素剤「エージレス」やフリーズドライに関する研究に従事する。昭和48年、父の築いた小城製粉に入社。研究者時代の経験を生かし、米の鮮度を保つ定温倉庫など同業他社にない工夫で会社を成長させる。平成2年、社長に就任。米の精米・製粉から、米粉使用の和菓子、洋菓子、パンの製造販売を手掛ける。

のせ菓業 (小城製粉の製菓部)
鹿児島県薩摩川内市隈之城町1892-1
TEL: 0996-22-3447
FAX: 0996-20-6611
HP: <http://www2.ocn.ne.jp/~kojos/>
交通: JR川内駅から車で約5分
郷土菓子からかんや和菓子のほか、米粉のケーキやバウムクーヘンなどの洋菓子も大人気。米粉パンは、電話またはFAXで注文販売中。



55 小城製粉の「米粉パン」を抽選で6名さまにプレゼント。詳しくはp.64をご覧ください。

ブレッド・ミュージアム京田屋 石山本店
住所: 札幌市南区石山2条3丁目14-1
TEL: 011-591-2497
HP: <http://www.kyodapan.co.jp/>
交通: 地下鉄真駒内駅より車で約15分
小麦粉をはじめ、主要原材料の95%が北海道産。夕張メロン果汁を入れたメロンパン、40年間変わらない食パン「グランドール」が人気。札幌を中心に6店舗。



京田食品は自宅を改装した小さなパン屋からスタートしました。定番商品である食パン「グランドール」は、希少なカナダ産マニトバ粉でつくった40年前の商品ですが、このパンにより、当社は飛躍的に成長しました。そのころは大手スーパーからたくさん引き合いが来ましたが、父は事業の拡大より、新しい技術の習得を重視し

京田食品株式会社代表取締役社長

京田 保さん

昭和44年商学部商業学科卒業
(きょうだ・たもつ) 昭和21年北海道生まれ。本学卒業後、実家が営む昭和24年創業の京田食品に入社し、経理を担当。平成5年、代表取締役社長に就任。北海道の素材を生かして「夕張メロンパン」や海鮮風味の「原北ラスク」などの新作商品を開発。パンが好物で、朝だけでなく、日に2回パンを食べることも。中でも、昭和40年の全国菓子博覧会で名誉大賞を受賞した食パン「グランドール」の厚切りを、トーストして食べるのがお好み。



北海道産原材料で差別化を図る
地道に培ってきた技術力と

ていたので、昭和40年代後半に東京から進出してきた百貨店のベーカリー部門と委託製造契約を結び、冷凍パンやデニッシュづくりの技術をいち早く導入しました。ここ数年でパン業界の寡占化は激しく、大手製パンメーカーに押され、独立系メーカーは道内では当社だけになってしまいました。当社が生き残れたのは、進取の気性を備えていたことも一因にある

と思います。20年ほど前には北海道産小麦粉を使ったパンの研究も始め、他社に先駆け北海道産小麦粉100%で製パン添加物ゼロのパンの開発にも成功しました。道産小麦粉はパンにするには難しい粉ですが、自分たちが誇る土地の産物を使うことは、使命のように感じています。

ヒット商品は、15年前に夕張農協より「夕張メロン」の商標使用許可を取得して製造販売している「元祖夕張メロンパン」と最近では「スープカレーパン」です。これらは全国で開かれる北海道展に「北海道らしいパンを出品してほしい」との依頼があり、手掛けたもの。こうした新奇なパンの注文には、小規模ながら製造から包装までのラインがある、うちのような会社が有利なのです。こうした強みを生かした商品開発で、今後もがんばっていききたいですね。

青い目の人形がもたらした 国際交流の風 目指すは「せかいのかみやま」!

町域の8割以上を急傾斜地の山林が占める徳島県南西部の町・神山町。NPO法人グリーンバレー理事長・大南信也さんは高齢化と過疎に直面するふるさと「神山」に、世界中から芸術家を招聘し、創造的な人の連鎖で町に躍動をもたらそうと、一風変わった町おこしを実践している。

NPO法人グリーンバレー理事長
大南 信也さん
昭和52年理工学部交通工学科卒業



(おおみなみ・しんや)昭和29年徳島県生まれ。本学卒業後、渡米し、スタンフォード大学大学院入学。同大学院修了後に帰国し、実家が営む土木建設会社に入社。現在、代表取締役社長を務める。また、平成4年、神山町に神山国際交流協会が発足すると会長に就任し、「神山アーティスト・イン・レジデンス」、全国初の民間での道路清掃活動「アドプト・ア・ハイウェイ」などを手掛ける。同協会は、その後、町営施設の管理や移住交流支援センターの運営なども請け負うこととなり、平成16年にNPO法人グリーンバレーへと発展し、現在理事長を務める。
NPO法人グリーンバレー
http://www.in-kamiyama.jp



「国際交流」の可能性を伝えてくれた 1体の人形

町の中心地にある神領小学校に飾られている「青い目の人形」(注)。名前はアリス。昭和2年、米国から日本に贈られた親善人形の一つで、太平洋戦争勃発後も心ある一人の女性教師によって守られ、町に残された。平成元年、人形が持っていた「パスポート」に米国ペンシルバニア州の名を見つけた大南信也さんは、人形の送り主に思いをはせ、行動を起こす。米国に手紙を出して送り主を探し出し、平成3年に町民31人の「訪問団」による人形の里帰りを実現させた。

徳島市に下宿し、大学は東京へ。その後、米国へ留学した大南さん。人形とは逆コースだが、同じ道をたどっている。土木施工会社として県内有数の技術力を有するとの評価も得たが、自分にしかできないことで過疎に悩む故郷に貢献したいと考えていた。そんな大南さんに1体の人形が、「国際交流で町を活性化すること」を決意させた。「せかいのかみやま」を目指す活動の原点である。

「新しいことを始めるとき“できない理由”を考えるのではなく、“できる方法”を考えて“とにかく始める”ことが大切です」と語る大南さん。「過去の失敗を分析するだけでは何も始まりませんよ。“できる方法”に目を向ければ、たくさんのアイデアが生まれます。これがスタンフォード流

たちが町の自然をアートの一つと考え、私有林の中に勝手に作品をつくってしまっただけ(笑)。急いで所有者に謝りにいったりもしたが、「町民たちがおっかなびっくりアーティストたちに話をするようになって、自然な形で交流が始まりました」。町中を現代アートの美術館に見立てたアーティストの発想は、同時に観光客を呼ぶ相乗効果も生んだのである。

創造的な人々とつくり出す 「創造的過疎」

活動は国際交流にとどまらない。大南さんは今、「創造的過疎」という発想による町おこしを実践、高齢化と過疎に悩む町を救う原動力になっている。それは「過疎を直視し、その現状を正しく理解し、賢く過疎化させていく」というやり方。将来の町のあるべき姿を明確化すれば、何人の移住者が必要なのか、どんな人に移住をしてもらえばいいか分かってくる。「町を活性化できる創造的な移住者を受け入れます。夢をもった人が集まれば、新しい町の可能性が生まれますからね」。この発想が、平成20年から実施されている「ワーク・イン・レジデンス」

大南さんが開け放った神山町の「交流の扉」は、魅力的な人々を呼び込み、山間の田舎町を世界一「ステキな田舎」に変えようとしている。

大南さんの活動の原点となったアリスと彼女のパスポート。今でも、神領小学校がアリスのお家。神山町の人々に愛されているアリスは、在校生や卒業生が縫ってくれた洋服をたくさん持っていて、季節などによって洋服を着替えている



①平成3年、アリス里帰り米国ペンシルバニア州ウイルクスバーク市を訪れた神山町の一行。後列右から4人目が大南さん ②③昨年で12回を迎えた「神山アーティスト・イン・レジデンス(KAIR)」。神山町の山や田んぼには、アーティストの作品が展示されている。写真2は、平成15年のKAIRに参加したストレイドム・ファン・ダ・メルヴェさん(南アフリカ)の作品「人間の時間を抱く等高線」。写真3は、21年のキャメロン・ホッキンソンさん(アメリカ)の作品「春、夏、秋バゴダ」 ④昨年のKAIRで作品づくりをしているマリナさん。彼女はポルトガルから来た ⑤KAIRのアーティストは、小学校などの課外授業で神山の子供に美術の楽しさも教える。大南さんいわく「都会の子より神山の子の方が、ずっと外国人に接する機会が多いですよ」 ⑥神山町には、いろいろな国からいろいろな夢をもった人が集まり、町の人と交流している ⑦「ワーク・イン・レジデンス」で古い民家を再生し、開業したパン屋「薪パン」。大阪から移住した若い夫婦が、神山町の石でつくった窯で焼くパンは、町の新名物となった ⑧グリーンバレーが行う「神山塾」では、全国から集まった若者が、地域の担い手や社会起業家を目指し、地域課題との向かい合い方や、その解決方法を学んでいる。この日は町の河原での課外授業



(注) 昭和2年、中国大陸の権益や日本人移民問題などで日米間の政治的緊張が高まる中、米国人シドニー・キューリック博士の発案で米国から日本全国の小学校などに贈られた12,739体の「友情の人形」。太平洋戦争中、敵国の人形として、その多くが廃棄され、現存するものは全国で約300体。徳島県には神領小学校の1体が残るのみ。当時、日本からは返礼として58体の市松人形が米国に贈られた。

映画館が元気なら街も元気！ 萩の映画の灯を守り続けて

今、全国各地から「街の映画館」が姿を消している。山口県西部から島根県東部にかけての日本海側約300kmに及ぶエリアでも映画館は次々に閉館し、ついに山口県萩市に1館を残すのみとなってしまった。その唯一の映画館「萩ツインシネマ」を守る高雄一壽さん。映画がもつ無限の可能性を信じて、故郷の街に映画の灯をともし続けている。



NPO法人萩コミュニティシネマ 理事長
高雄一壽さん
昭和51年歯学部歯学科卒業



(たかお・かずひさ) 昭和26年山口県生まれ。中学1年生のときに「アラビアのロレンス」を見て以来、映画のとりこになる。本学卒業後、日本大学歯科病院に2年間勤務の後、故郷・萩市に戻り、父の急逝により一時閉院していた高雄歯科医院（現・高雄歯科クリニック）を再開。歯科医師の傍ら昭和56年から「萩ツインシネマ」の運営に携わる。「一つのスクリーンで映画の世界を分かち合い、仲間とあれこれ話し合おう。こういう時間は人生を豊かにします。映画は最高の娯楽！」。



萩唯一の映画館のピンチに かつての映画青年が立ち上がる

東萩駅から史跡や寺院が多い街並みを抜け、歩くこと15分。昭和の雰囲気を残す雑居ビルの3階に、萩唯一の映画館「萩ツインシネマ」がある。

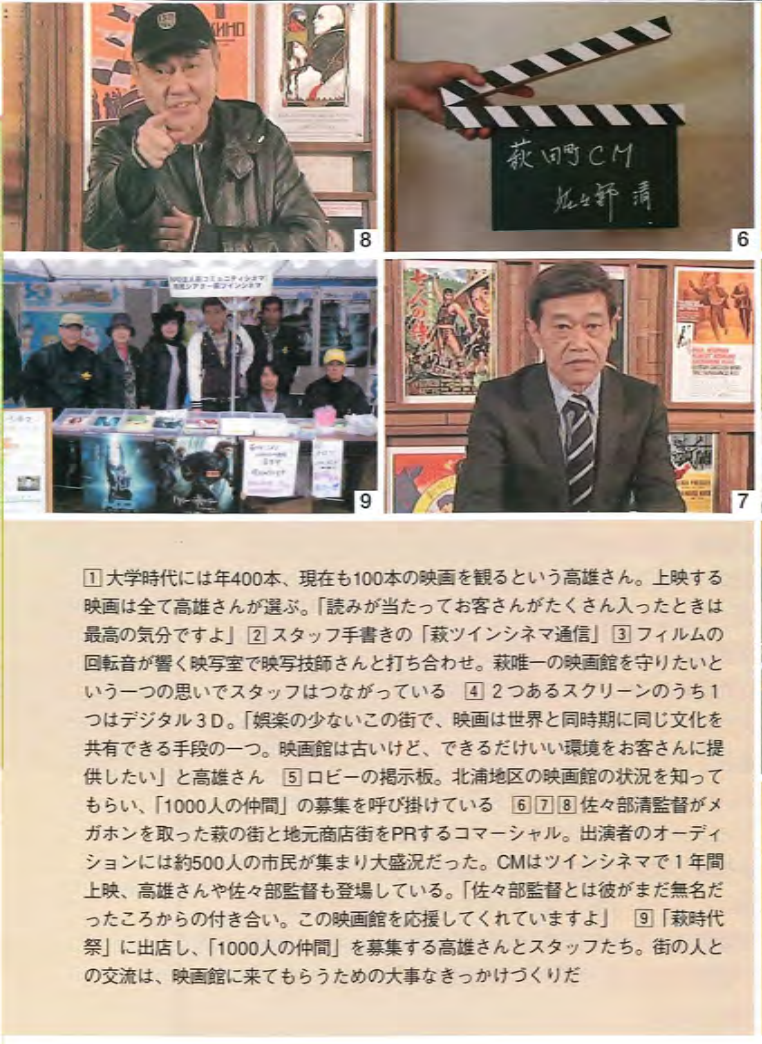
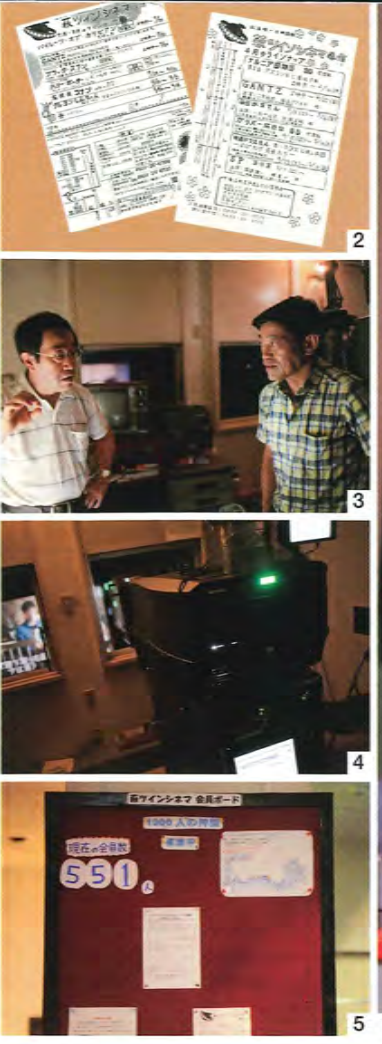
「昭和45年ごろには萩市にも映画館が5館あって活気がありました。でも、ビデオの普及で次々に閉館。ついに1館だけになりました」。そう語るのは、この映画館を運営するNPO法人「萩コミュニティシネマ」理事長・高雄一壽さん。歯科医を本職とする高雄さんが、映画館運営に携わることになったのは昭和56年のこと。経営危機にあった映画館主に「続けられない。助けてくれないか」と

頼まれたのがきっかけだった。

もともと無類の映画好きで、映画監督を目指したこともあった高雄さん。実家の歯科医院を継ぐ道を選んだが、館主の声かけによって、一度は諦めた映画の世界に踏み込むことになった。

「映画館は人口12万人以上の町でない」と成り立たないといわれます。でも、萩は5万強。それは、この映画館が消えたら二度と萩に映画館が建たないことを意味します。遠くの映画館に行ける人はいない。でも、子供やお年寄りなど、行けない人もいます。その人たちのためにも、地元映画館をなくすわけにはいかないでしょう。

高雄さんは出資者を募り、資本金1千万円で株式会社を設立。映画館の経営に



① 大学時代には年400本、現在も100本の映画を観るといふ高雄さん。上映する映画は全て高雄さんが選ぶ。「読みが当たってお客さんがたくさん入ったときは最高の気分ですよ」② スタッフ手書きの「萩ツインシネマ通信」③ フィルムの回転音が響く映写室で映写技師さんと打ち合わせ。萩唯一の映画館を守りたいという一つの思いでスタッフはつながっている④ 2つあるスクリーンのうち1つはデジタル3D。「娯楽の少ないこの街で、映画は世界と同様に同じ文化を共有できる手段の一つ。映画館は古いけど、できるだけいい環境をお客さんに提供したい」と高雄さん⑤ ロビーの掲示板。北浦地区の映画館の状況を知ってもらい、「1000人の仲間」の募集を呼び掛けている⑥⑦⑧ 佐々部清監督がメガホンを取った萩の街と地元商店街をPRするコマーシャル。出演者のオーディションには約500人の市民が集まり大盛況だった。CMはツインシネマで1年間上映、高雄さんと佐々部監督も登場している。「佐々部監督とは彼がまだ無名だったころからの付き合い。この映画館を応援してくれていますよ」⑨ 「萩時代祭」に出店し、「1000人の仲間」を募集する高雄さんとスタッフたち。街の人との交流は、映画館に来てもらうための大事なきっかけづくりだ

乗り出した。ちょうど大作のヒットにも恵まれ、当初経営は順調だった。しかし、県南部にシネコン（注）が建ち始めると客足は遠のき、会社設立から8年で再び閉館に追い込まれた。

NPO設立でリベンジ 目指すは市民参加型の映画館

それでも、高雄さんは諦めなかった。「文化都市・萩に映画館は必要。NPO法人で映画館を建て直そう」という萩市の野村興児市長の提案を受け、新たな形で映画館運営を再開する決心をした。しかし、興行収入だけでは立ち行かない。市長や協力者らと話し合いを重ね、「萩ツインシネマを支える1000人の仲間」の募集を決めた。会員に月1千円の会費を払ってもらい、運営を支えてもらうのだ。こうして、平成16年「NPO法人萩コミュニティシネマ」が発足。全国でも珍しい、市民の力で映画館を残す「試みが始まった」。

これまでのようにお客さんを持つだけでなく、「映画館に行ってみよう」と思わせる、積極的な仕掛けづくりにも力を入れるようになった。



萩ツインシネマ
収容人数：2スクリーン 全358席
スクリーン1=198席(3D対応)、スクリーン2=160席
住所：山口県萩市東田町18-4 ヤングプラザ萩3F
TEL0838-26-6705
休館日：毎週火曜日
HP：http://www.haginet.ne.jp/users/twincinema39/
通常上映のほか、子供や老人クラブを対象とした映画鑑賞会、ライブコンサート、クリスマスイベントなどを開催。

「映画『半落ち』などで有名な下関市出身の佐々部清監督を招いて、映画の前に流す萩のCMを市民に出演してもらい撮影したり、トークショーを開いたりして盛り上げました。映画館に活気があれば街も元気になります」。

「1000人の仲間」は現在550人を超えた。すべては高雄さんと志を同じくするスタッフとボランティアの努力の賜物だと言う。

「苦労は多いけど、映画の灯は消せない。だからって、この映画館に執着しているわけじゃない。誰かがこの辺にシネコンを建ててくれるなら、僕は喜んでこの映画館の幕を引いて応援しますよ」。

高雄さんの願いは一つ。これからも萩の人たちが気軽に映画に触れられること、それだけだ。

(注) シネマコンプレックスの略称。一つの建物に複数の上映場をもつ施設。欧米に多く見られたが、平成5年に日本に導入され、その数は増え続けている。



隣人
 著者／喜多由布子
 (作家／平成8年通信教育部文理学部文学専攻(国文学)卒業)
 発行元／講談社 価格／1,470円(税込)

語学が堪能で、結婚後も主婦業の傍ら翻訳の仕事をごこなす菊川操。夫・光一郎の転勤で家族そろって東京から札幌に移り住むことに。新居となったマンションの階下に住む料理研究家・畑中咲月との付き合いが新たに始まった。DVや離婚問題を抱えた咲月は操に姉のように甘え、光一郎を頼りにするようになり、2人の生活にいつの間にか咲月が入り込んでいた。そして……。

誰も見知らぬ街に引っ越して新しい環境に戸惑いを感じたり、人の優しい心遣いにうれしくなったりする。しかし、優しさに悪意が隠されていたら、悪意が牙をむいて襲いかかってきたら、どう家族を守ればいいのかと、考えさせられるミステリー作品である。



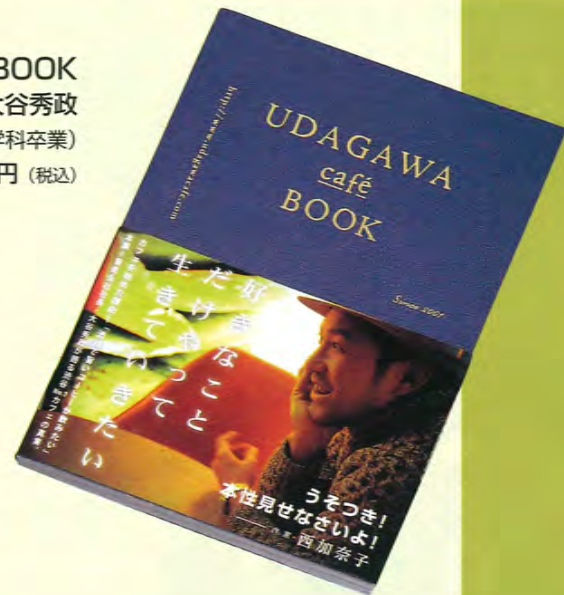
箱根駅伝物語 ラストスパートをかけよ!
 著者／秋山正幸
 (日本大学名誉教授／昭和27年文学部英文学科卒業)
 発行元／図書新聞 価格／1,680円(税込)

箱根駅伝優勝に情熱を懸ける陽昇大学陸上競技部・中野雄太が、周りを取り巻く人々や環境を通して、選手として人として成長していく姿を描く青春小説。

雄太は往路で最も難所といわれている5区の山上りコースを走り、すねを傷め失速し予想外の不成績に終わってしまう。才能豊かなアスリートの味わったことのない挫折、そして大学や仲間迷惑を掛けてしまったという自責の念。一時は退部を考える雄太がいかに駅伝選手として強く立ち直っていくのか……。

本書はフィクションでありながら、実際の箱根駅伝の様子を可能な限り再現。選手の競技中の心の機微、合宿の部屋割りや到着タイムなどリアルな描写は、日本大学陸上競技部前部長の肩書をもつ著者ならではの表現と感心させられる。主人公の駅伝、友情や恋愛に懸ける、迷いつつも実直でほとぼる若い感性に、胸が熱くなる。

UDAGAWA café BOOK
 著者／大谷秀政
 (エル・ティ・アンド・ケイ代表取締役社長／平成3年文理学部社会学科卒業)
 発行元／LD&K BOOKS 価格／1,680円(税込)



表紙をめくるとまず、目に飛び込んでくる「——好きなことをやっていきたいと思った、それは必死だった」というくだりで始まる本書は、著者が平成13年に、夜カフェブームの火付け役となった人気店、渋谷「宇田川カフェ」をオープンした理由や、こだわりのエッセンスで軽快に語りかける、スタイリッシュな一冊。

「新しいビルが嫌い、チェーン店が嫌い」と公言する著者が、飲食、内外装、音楽などカフェに必要な全ての要素に散りばめられているオリジナリティや工夫を、さらりと表現。だが、その中に、レコード会社なども経営する企業のトップとしての理念やクリエイティビティが凝縮されていることに気付かされる。

奇跡の一本松 大津波をのりこえて
 著者／なかだえり
 (イラストレーター／平成9年生産工学部建築工学科卒業)
 発行元／汐文社 価格／1,890円(税込)



昨年3月11日に襲った東日本大震災。岩手県陸前高田市も甚大な被害を受けた地区の一つ。この地で古くから人々に親しまれてきた高田松原の7万本の松も、大津波によって根こそぎ流されてしまった。しかし、たった一本の松だけが津波に負けず生き残った。本書は、岩手県出身で、本誌でもおなじみのイラストレーター・なかだえりさんがこの松を題材にした絵本。

高田松原が江戸時代に植樹され、地元の人の暮らしになくなくてはならないものであること、これまで4度の津波に襲われたことなど、奇跡的に残った一本の松の物語を独特の優しいタッチのイラストと平易な文章で分かりやすく描いており、子供から大人まで年齢を問わず楽しめる。ラストの新たな松の息吹は、震災で失われたさまざまなものの復興や未来を心に誓い、希望の光を見いだす象徴のように感じられる感動的な一冊。

小さな会社でもできる 海外取引ガイドブック
 著者／山根英樹
 (ジェットロ認定貿易アドバイザー／平成4年文理学部哲学科卒業)
 発行元／中央経済社 価格／1,890円(税込)



社会や経済、産業活動などが国や地域の境界を越えて地球規模で拡大し変化するグローバル化は、今や世界の潮流といえる。中国やインド、韓国などに比べてこの流れに一步出遅れた感のある日本は、大企業だけでなく中小企業も国際的な視野でビジネスを展開するべきと説くのが著者である。アメリカに生まれ、日本、アメリカ、オーストラリアで暮らし、広告、マーケティング、貿易、投資などに従事した経験を生かして、中小企業が海外取引や投資を行う場合のポイントを網羅。大企業に比べ経験や情報収集力などの不足で海外進出のしにくい中小企業でも、国際的な競争力を強化できるヒントやテクニックを紹介している。

Book Review

書籍紹介のページに掲載した全ての本を抽選で各々3名さまずつプレゼント。詳しくはP.64をご覧ください。

日本大学校友会 富山県支部



竹平 栄太郎支部長 (中央)
昭和45年商学部会計学科卒業
(たけひら・えいたろう) 昭和22年富山県生まれ。本学卒業後、立山アルミニウム工業(株)(現三協・立山ホールディングス)入社。平成3年に代表取締役社長就任。現在は特別顧問。その他、万葉線(株)代表取締役社長、高岡カントリー倶楽部理事長なども兼務。趣味はゴルフ。
(左は副支部長・岡本欽治さん、右は事務局長・中山英樹さん)

富山県支部の結成は古く、資料などは残っていませんが、昭和49年には県支部の規約がつけられ、正式な組織で活動していた記録が残っています。その当時から活動されていた先輩方から、「若い力で活性化を」と支部長のバトンを託されたのが平成14年のこと。散逸した校友の情報を集める作業は大変で、支部を4ブロック(富山・高岡・新川・砺波)に分け、各地域会員が地道に周囲の人に声を掛けて会員を増やしてきました。

現在会員は約200人で、年1回の役員総会や幹部会議、新年会を開催しています。また、日本大学の運動部や研究活動への応援、協力も校友の大切な役割と考え、県内で毎年行われている柔道部の合宿には毎回激励に訪れています。一昨年には、理工学部の航空研究会が人力飛行機の世界記録を目指して富山湾から飛び立ちましたが、この際も応援に駆け付



—昨年、人力飛行機の世界記録を目指した理工学部・航空研究会の応援での記念写真

けました。記録樹立はなりませんでしたが、夢あふれる挑戦は校友として誇らしく、これからも続けてほしいものです。

会員の親睦を目的として、「全国大学OB対抗親善ゴルフ大会」や「富山県東部大学ゴルフ大会」への出場も恒例となっており、毎年上位の成績を収めています。現在は富山支部主催のゴルフコンペを鋭意計画中。親睦を下地に活動をさらに盛り上げていきたいですね。

今後の課題は、若手会員の獲得です。本学OBの著名人を招いての講演会・ゴルフコンペなどを開催し、支部の存在をアピールしたいと考えています。また、県内で行われる母校の活動を支援する体制づくりも考えており、そのためには、校友会本部とより一層密に連携をとることが必要と考えています。このような時代だからこそ、大学と支部が協力して活動を広げ、社会を盛り上げていこうではありませんか。

日本大学校友会 三重県支部



宇野 恭生支部長 (左)
昭和45年法学部法律学科卒業
(うの・たかお) 昭和22年三重県生まれ。本学卒業後、父の経営する宇野重工株式会社に入社。昭和60年に代表取締役社長就任。水門・環境水処理施設製造、近年は橋梁施工・管理を手掛け、首都高速道路のメンテナンスや東日本大震災被災地の橋梁調査等を行う。
(右は幹事で事務局担当の東地道夫さん)

三重県では、戦後間もない昭和22年から校友たちが集まり親睦を深めていました。昭和33年には理工系の学部出身の校友の集まりとして「三重県工友会」が設立され、年2回のゴルフ懇親会と忘年会を行い、昨年で50周年を迎えました。これらの活動の気運の高まりの中から、三重県全体の正式な支部の設立が望まれるようになり、昭和61年、三重県支部として第1回総会を開催しました。

県内には四日市、津、鈴鹿、松阪、伊勢と5つの地域支部がありますが、現在、新たに桑名に支部を設立するため準備中で、本年中には実現したいと思っています。

主な活動には、毎年2月に開催される総会があり、地域支部が持ち回りで担当しています。また、講演や会食をメインにした「桜門懇話会」を年2回開催し、親睦を深めています。数年前までは名簿も作成し、総会記録とともに会員に配付していました。



三重県支部ならでの活動に、学生三大駅伝の一つである全日本大学駅伝の応援が挙げられます。毎年毎年、優勝を祈りながら沿道の地域支部が一丸となって早朝から各中継地点に旗を掲げ、応援に奔走。一昨年の日本大学優勝のときには感無量で、恒例のゴールでの選手迎入れには報奨金を持って駆け付けました。

近年は会員の高齢化が課題ですが、南北に長い三重県では全体で動くより、地域支部の活動を原動力として、地元の若手を発掘し、にぎやかな総会を開催できるようにしたいと考えています。集まる機会が多ければ、親睦は深まります。数年前まで実施していた旅行会も復活させたい、県南の尾鷲・熊野にも支部を、と思いは尽きません。今後も地域支部を基盤に活動を充実させ、日大らしい異業種交流をアピールしていきたいと思っています。

全日本大学駅伝では、支部から優勝10万円、2位以下は2万円の報奨金を出している。昨年の大会は4位という結果に。写真は名古屋の熱田神宮から伊勢神宮宇治橋の8区106.8kmを走り切った選手たちとその健闘をたたえる宇野支部長(左)

貴重な総会記録の数々 昭和61年以降、毎年の活動記録はファイルにまとめられ、保存されている

校友会 NEWS



あいさつする田中会長 祝辞を述べる大塚総長

平成23年度全国校友大会

日本大学全国校友大会が、11月14日(月)午後6時から、東京ドームホテル(東京都文京区)「天空」で開かれ、全国から集まった校友や本学関係者など約1,000人が参加しました。この大会は、校友と本学関係者が一堂に会し、「絆」を深め、大学の発展に寄与することを目的に毎年開かれています。今回は9月に就任した大塚吉兵衛日本大学総長と再任された田中英壽日本大学理事長のお祝いも兼ねての開催となりました。

元テレビ朝日アナウンサー・川松真一朗さん(平成15年法卒)の司会で進められた宴は、校歌斉唱の後、田村栄一大会実行委員長の辞で開会。大会会長の田中英壽校友会会長のあいさつした後、来賓代表として大塚総長からお祝いの言葉がありました。そして、鈴木政二参議院議員(昭和48年法卒)の発声で乾杯が行われると、大会は佳境に。応援リーダー部・ディッパーズの軽快な演技が繰り広げられる中、にぎやかな歓談が続ぎ、参加した校友は互いの絆を深めていました。



全国から集まった校友でいっぱいになった会場



大会に花を添え、大いに盛り上げたディッパーズ

NU祭表彰式

日本大学および付属高等学校等が参加した平成23年度全学文化行事「2011 NU祭」(統一テーマは、Next-U~みんなでひとつに~)の表彰式が、昨年11月26日に日本大学会館で、学生・生徒や大学関係者約300人が出席して行われました。日本大学校友会では、昨年5月から半年間にわたって繰り広げられたNU祭に、学生・生徒の創作活動を支援する目的で協力してきました。また、各部門に「校友会会長賞」と「校友会特別賞」の2賞を設け、受賞者には奨学金(総額95万円)を授与し、創作意欲の向上と創作活動の支援を図っております。

各部門の「校友会会長賞」「校友会特別賞」は左記のとおり。(敬称略)



田中会長から「校友会会長賞」を受ける受賞者

ビデオ発表

- 校友会会長賞 医学部
- 校友会特別賞 法学部、経済学部、商学部、理工学部、工学部、歯学部、生物資源科学部、薬学部、通信教育部

絵画

- 校友会会長賞 太田 貴之 (日大習志野3年)
- 校友会特別賞 齋藤 夏紀 (日大三島3年)、三浦 早葵 (文理4年)、松山 愛 (岩瀬日大3年)、小川 萌子 (日大一高2年)、伊藤あかね (日大東北2年)

書道

- 校友会会長賞 金子 馨 (文学研究科博士後期2年)
- 校友会特別賞 植松 千恵 (日大三島3年)、青木美菜代 (宮崎日大3年)、細谷 悟 (法2年)、橋本 昌幸 (大垣日大3年)、橋本 菜加 (経済3年)

インフォメーション

- ◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…
この会報は、会員相互のコミュニケーションを深めていただくことを目的に、1人でも多くの校友や在学生の紹介記事を載せています。お店やお宿を営んでいる方、ユニークな先輩や後輩をご存じの方、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。
 - ◎住所・勤務先が変わったら…
住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。
電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。
 - ◎会員証を紛失されたら…
会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行いたします。
 - ◎新規会員を紹介したい…
新規に会員希望の方をご存じの方は、事務局までご連絡ください。資料を送付いたします。
- 1 封筒、はがきで
〒102-0076
東京都千代田区五番町2-6 日本大学桜門会館
日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係
 - 2 電話、ファクシミリで
TEL 03-5275-9300
FAX 03-5275-9122
 - 3 電子メールで
E-mail : koyu@nihon-u.ac.jp

桜縁 No.20 平成24年1月発行
編集・発行 日本大学校友会
〒102-0076
東京都千代田区五番町2-6 日本大学桜門会館
TEL 03-5275-9300 FAX 03-5275-9122
広報委員会
委員長：綾部 東洋子
委員：石 光 井上 閑陽雄
内田 章 小橋 恵津
中村 克夫 萩原 正芳
茂木 完仁 齋藤 正道
高橋 浩 大熊 智之
石田 秀樹 堀 敏一

編集後記

今年5月に開業予定の「東京スカイツリー」。皆さん、開業が待ち遠しいのではないのでしょうか？私も東京タワーよりも高い展望台からの景色を楽しみにしている一人です。今回、東京スカイツリーを“桜縁的”視点でタワーの建築に係わっている校友を探していくと、未知の高さへの挑戦が話題となった建設現場の要所要所に多くの校友が関わっていることが分かりました。日本大学の理工系3学部の教育力が、世界一のタワー建設を支えていると思うのは、私だけでしょうか？東京スカイツリーを訪れた際には、本学の教育力の高さを感じてください。

◆ ◆ ◆
今号には新企画「気仙沼だより」と「青春プレイバック」があります。「気仙沼だより」は、震災の被災地を忘れないため、三陸新報社記者の守さんに連載をしていただきます。「青春プレイバック」は、学生時代の思い出話を語っていただく企画ですので、ご希望の方は、お申し出ください。(T)

気仙沼高校からのお礼の手紙

先日、「桜縁」第19号の「特集」の取材で訪問した宮城県気仙沼高校から、商学部の学生による参考書や辞書などを同校に送る活動へのお礼の手紙が届きました。お手紙に同封されていたしおりには、被災に負けず運動会や文化祭をしている元気な気仙沼高校の生徒たちの姿が写っています。商学部の学生が始めた小さな支援が、新しい“絆”を育てています。

お手紙の全文

この度は、数多くの辞書や参考書を送ってくださり、ありがとうございました。
今回の震災で本屋もなくなり、もっていた辞書や参考書も流されてしまった私たちにとって、みなさんが送ってくださった多くの辞書や参考書は、毎日の勉強に役立っております。
これからも、みなさんからいただいたものを無駄にすることなく、日々の勉強に一生懸命取り組んでいきたいと思っております。
本当にありがとうございます。
これから寒くなっていくと思いますが、お体に気をつけてお過ごしください。

気仙沼高校一同



桜縁No.20 読者プレゼント

巻末のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントを差し上げます。ご希望の商品番号をアンケートはがきにご記入の上、ご応募ください。なお、当選の発表は商品の発送をもって替えさせていただきます。

<p>01 井上天極堂 「葛もち」 抽選で 3名さまに</p> 	<p>02 工藤進也さん作陶の 「石垣焼」 抽選で 3名さまに</p> 
<p>03 小城製粉 「米粉パン」 抽選で 6名さまに</p> 	<p>04 秋山正幸さんの本 「箱根駅伝物語」 抽選で 3名さまに</p> 
<p>05 なかだえりさんの本 「奇跡の一本松」 抽選で 3名さまに</p> 	<p>06 喜多由布子さんの本 「隣人」 抽選で 3名さまに</p> 
<p>07 大谷秀政さんの本 「UDAGAWA café BOOK」 抽選で 3名さまに</p> 	<p>08 山根英樹さんの本 「海外取引ガイドブック」 抽選で 3名さまに</p> 

次号「桜縁」第21号は7月下旬発行です！

- 特集「没後120年・学祖山田顯義」
昨年国際関係学部学部長の佐藤先生の著書「日本巨人伝 山田顯義」が発行されたり、今年1月2日にはテレビドラマになるなど、注目を集めている日本大学の学祖・山田顯義。今年は山田の没後120年に当たります。これにちなんで、“桜縁的”視点で学祖山田をお伝えします。
- 先輩にインタビュー「声優の仕事」
学生からのアンケートでは、声優の方にインタビューしたいという希望が一番。でも、声優の仕事の現実とはどんなものか、本当の声優の仕事をご紹介します。

※内容は、都合により変更される場合もあります